

市第 130 号議案 横浜教育ビジョン 2030 の策定

1 「横浜教育ビジョン 2030」の策定趣旨

教育委員会では、平成 18 年に、概ね 10 年を展望し横浜の教育が目指す姿を描いた「横浜教育ビジョン」を策定し、その実現に向けて取り組んできました。現在の「横浜教育ビジョン」策定から概ね 10 年が経過し、子どもや学校を取り巻く環境が大きく変化していることや、新学習指導要領を踏まえ、今後の社会の姿を見据えた教育の理念や方向性を示すため、「横浜教育ビジョン 2030」を策定します。

小・中・高等学校段階の学校教育を中心に、横浜の教育が目指す人づくり、横浜の教育が育む力、横浜の教育の方向性を示します。

2 「横浜教育ビジョン 2030」の推進

- 「横浜教育ビジョン 2030」を具現化する施策や取組は、今後の「横浜市教育振興基本計画」で示します。
- 各学校は「横浜教育ビジョン 2030」を踏まえ、子どもの発達段階や、学校、地域の状況に応じて、学校教育目標を設定します。

3 「横浜教育ビジョン 2030」(案) 及び参考資料 (案)

別紙 1 のとおり

4 パブリックコメントの実施概要

「横浜教育ビジョン 2030」素案について、パブリックコメントを実施した結果、多くの貴重なご意見をいただき、ご意見の一部を案に反映しました。

- | | |
|---------------|--|
| (1) 実施期間 | 平成 29 年 12 月 15 日 (金) ~ 平成 30 年 1 月 15 日 (月) |
| (2) 意見提出方法 | 電子メール、FAX、郵送 |
| (3) 素案冊子の配布部数 | 7,500 部 |
| (4) 周知方法 | 各区役所、市民情報センター、市立学校、行政サービスコーナー、広報よこはま、教育委員会ホームページ、ツイッター 等 |
| (5) 実施結果 | 別紙 2 のとおり |

5 素案からの修正箇所

別紙 3 のとおり

6 その他資料

別紙 4 「横浜教育ビジョン」の振り返り

別紙 5 現行ビジョンと「横浜教育ビジョン 2030」の違いについて

横浜教育ビジョン2030（案）

横浜教育ビジョン2030参考資料（案）

横浜市教育委員会

1 横浜の教育が目指す人づくり

自ら学び 社会とつながり ともに未来を創る人

2 横浜の教育が育む力

「自ら学び 社会とつながり ともに未来を創る人」の育成を目指し、子どもに身に付けてほしい力を五つの視点「知」「徳」「体」「公」「開」で表し、相互に関連付けながらバランスよく育んでいきます。

知 生きて はたらく 知

- 基礎・基本を身に付け、自ら問題を発見し、よりよく解決する力
- 主体的に考え、意欲的に学び続ける力
- 知識や経験を活かし、知恵をはたらかせて生きる力

徳 豊かな心

- 自分を大切にし、しなやかに生きる力
- 自分を律する態度と人を思いやる優しさ
- 「本物」に触れることで育む豊かな感性

体 健やかな体

- 自ら健康を保持増進しようとする態度
- 体力づくりを通じ、心身ともにたくましく生きる力
- 生涯にわたって運動やスポーツに親しむ態度

公 公共心と社会参画

- 自分の役割や働くことの意義を理解し、行動する力
- 横浜を愛し、地域や社会のために、他者と協働する力
- 夢や目標を持ち、よりよい社会を創造しようとする態度

開 未来を開く志

- 自分を見つめ、多様性を尊重し、共生する力
- グローバルな視野を持ち、持続可能な社会の実現に向けて行動する力
- 進取の精神を持ち、新たな価値を創造しようとする態度

3 横浜の教育の方向性

多様性を尊重し、つながりを大切にした教育を推進します

多様性を尊重し、つながりを大切にしながら、次の四つの方向性に沿って施策や取組を進めます。

1 子どもの可能性を広げます

主体的な学び

主体的な学びを引き出し、様々な教育的ニーズに応じて、個性や能力を伸ばします。

創造に向かう学び

よりよい社会や新たな価値の創造に向け、学びを社会と関連付け、他者と協働する機会を創出します。

支え合う風土

相手と心から向き合うこと(想)^{※1}を大切にし、多様な価値観を認め、支え合う風土を醸成します。

学びと育ちの連続性

幼児期から社会的自立までの成長過程における学びや育ちの連続性を大切にします。

2 魅力ある学校をつくります

安心して学べる学校

教職員が子どもの理解を深め、いじめなどの課題をチームで解決し、安心して学べる学校をつくります。

社会とつながる学校

地域や社会と目標を共有し、連携・協働することを通して、子どもと社会がつながる学校をつくります。

いきいきと働く教職員

子どもが豊かに学び育ち、教職員がいきいきと働くことができる学校をつくります。

学び続ける教職員

教職員は自ら学び続け、資質・能力の向上を図り、使命感や情熱を持って職責を果たします。

3 豊かな教育環境を整えます

安全・安心な環境

学校施設の計画的な建替えや保全等を進め、子どもの安全・安心を確保します。

地域とともに歩む学校

地域とともに子どもをよりよく育む教育環境を整えます。

市民の豊かな学び

生涯にわたって主体的に学び、心豊かな生活につながるよう、市民の学びの環境を整えます。

4 社会全体で子どもを育みます

家庭教育の支援

家庭は子どもの心身の調和のとれた発達、自立心の育成、生活習慣の確立を図り、行政は家庭教育を支援します。

多様な主体との連携・協働

学校、家庭、地域をはじめ、国内外の様々な関係機関や企業等が連携・協働し、子どもを育みます。

切れ目のない支援

教育と福祉、医療等の連携により、子どもを切れ目なく支援し、自立と社会参画に向けた学びや発達を保障します。

※1 いじめをなくすために、「横浜子ども会議（2013（平成25））」で子どもたちがまとめたアピール文より

「横浜教育ビジョン2030」の解説

1 横浜の教育が目指す人づくり

自ら学び 社会とつながり ともに未来を創る人

複雑で変化の激しい時代、解が一つではない課題にも柔軟に向き合い、持続可能な社会の実現に向けて、自分たちができることを考え、他者と協働し、解決していくことが重要となります。

横浜の教育は、子どもが主体的に考え学び続け、多様な人々や社会と関わり合うことを大切にします。個性や能力を活かしながら、夢や目標に向かってチャレンジし、よりよい社会や新たな価値を創造できる人を育みます。

2 横浜の教育が育む力

「自ら学び 社会とつながり ともに未来を創る人」の育成を目指し、子どもに身に付けてほしい力を五つの視点「知」「徳」「体」「公」「開」で表し、相互に関連付けながらバランスよく育んでいきます。

知 生きて はたらく知

○基礎・基本を身に付け、自ら問題を発見し、よりよく解決する力

いつの時代でも、基礎・基本は学習や生活の基盤ですが、これからは、社会とのつながりを考えながら学んだことをどのように使っていくかがますます重要になります。そのため、多面的・多角的な見方や考え方で問題を発見し、身に付けた知識や技能を使って思考力・判断力・表現力等をはたらかせながら、よりよく解決していく力を育みます。

○主体的に考え、意欲的に学び続ける力

複雑で変化の激しい時代においては、新しいことに対する好奇心を持ちながら変化に柔軟に対応し、物事をよりよくしていこうとする意欲が、生きていく上での原動力となります。そのため、様々な課題に対して筋道を立てて主体的に考え、学ぶことの意義や楽しさを感じながら意欲的に学び続ける力を育みます。

○知識や経験を活かし、知恵をはたらかせて生きる力

知識や情報、技術をめぐる変化の速さが加速度的になる中、的確に社会の動向を捉えることが重要です。そのため、様々な情報を色々な角度から精査したり、知識を相互に関連付けたりして、物事を深く考え、真理や本質を見極める力を磨きます。その上で、学びを人生や社会とつなげ、豊かな発想を基に、知恵をはたらかせて生きる力を育みます。

徳 豊かな心

○自分を大切にし、しなやかに生きる力

「全国学力・学習状況調査（2017）」の結果、「自分には良いところがある」と答えた横浜市の小・中学生の割合は全国より低い状況です。自己肯定感、自信をもって物事に取り組み、困難を乗り越える力の源となります。そのため、自己理解を深め、自分をかけがえのない存在として大切にすることを育みます。また、積極的に周りに相談するなどして変化に柔軟に対応したり、助けを求めて困難を乗り越えたりすることができるような、しなやかに生きる力を育みます。

○自分を律する態度と人を思いやる優しさ

日常生活の様々な問題や自分の生き方について関わる課題に直面したときには、主体的な判断の下に行動することが重要です。そのため、自立的な生き方や社会の形成者としてのあり方について考え、よりよく生きるための行為を自分の意志や判断によって選択し、実践しようとする態度を育みます。また、他者と共によりよく生きることができるよう、相手の立場や気持ちを思いやって行動できる優しさを育みます。

○「本物」に触れることで育む豊かな感性

自然体験や生活体験が豊富な子どもほど、自己肯定感や道徳観・正義感が高いという調査結果「青少年の体験活動等に関する実態調査（2014）」があります。身近な自然から得られる発見や感動、人と人がじかに触れ合うあたたかな交流や文化芸術の情緒豊かな世界など、様々な「本物」に触れる体験を通して、豊かな感性を育みます。

体 健やかな体

○自ら健康を保持増進しようとする態度

横浜市では、いつまでも元気に自分らしい毎日を過ごせるようにするため、自分のできるところから健康づくりを楽しむことを「健康横浜 21」に掲げ、様々な取組を進めています。食生活の大切さを理解し、望ましい生活習慣や楽しく運動する習慣を身に付けることで、自分の心身の健康を保持増進しようとする態度を育みます。

○体カづくりを通じ、心身ともにたくましく生きる力

「小中学校児童生徒体力・運動能力調査（2016）」によると、横浜市の小・中学生の体力は全国より低い状況にあり、運動をする子どもとそうでない子どもの二極化傾向も見られます。体力は、意欲や気力といった精神面の充実にも深く関わっており、人間の健やかな成長を支え、豊かで充実した生活を送ることにもつながります。そのため、体を動かす楽しさや心地よさを味わい、自ら進んで運動やスポーツを継続的に行い、心身ともにたくましく生きる力を育みます。

○生涯にわたって運動やスポーツに親しむ態度

一人ひとりの興味関心に応じて運動やスポーツに親しむことは、生活をより豊かに送ることにつながります。「ラグビーワールドカップ 2019TM」「東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会」の経験を踏まえ、関係機関や企業等と連携した取組を通して、運動やスポーツに対する関心を高め、生涯にわたって運動やスポーツを「する、みる、支える、知る」の多様な関わり方で親しむ態度を育みます。

公 公共心と社会参画

○自分の役割や働くことの意義を理解し、行動する力

「我が国と諸外国の若者の意識に関する調査（2013）」の結果、社会問題への関心や自分の社会参加において、日本の若者の意識は諸外国と比べて低い状況です。そのため、学んでいることを社会と関連付ける工夫などを通して、身近な出来事や社会問題への興味関心を高めます。その上で、家庭や地域における役割も含めた幅広い視点で働くことの意義を理解し、社会的・職業的自立に向けて、自分の役割と責任を自覚し、行動する力を育みます。

○横浜を愛し、地域や社会のために、他者と協働する力

大規模災害の発生を契機に、改めて地域や社会の絆の重要性が認識されています。横浜では、多くの市民が横浜に対して愛着や誇りを感じており、豊富な人材と、活発な市民活動が特徴です。日頃から、横浜の魅力を発見する機会や、地域社会とのつながりについて学ぶ機会を通して、地域や社会のために自分ができることを考え、他者と協働しながら課題解決を図ることができる力を育みます。

○夢や目標を持ち、よりよい社会を創造しようとする態度

「全国学力・学習状況調査（2017）」の結果、将来の夢や目標を持っている横浜市の小中学生の割合は全国と比べて低い状況です。様々な分野で活躍する人や身近な尊敬できる人との出会いなどを通して、自分らしい夢や目標を持ち、生き方を考えようとする態度や、よりよい社会をつくるために、自ら考え行動し続ける態度を育みます。

開 未来を開く志

○自分を見つめ、多様性を尊重し、共生する力

グローバル化や価値観の多様化が一層進む中、年齢や性別、国籍や文化の違い、障害の有無等に関わらず、全ての人がお互いの人権や尊厳を大切に、支え合い、いきいきとした人生を送ることができる共生社会の実現が求められています。そのため、自分の内面と向き合い、自他の違いを受け止めながら、価値感や背景の異なる相手ともコミュニケーションを図ることを大切にします。その中で、共感的に理解したり、合意を形成したりするなど、共に生きていく力を育みます。

○グローバルな視野を持ち、持続可能な社会の実現に向けて行動する力

経済、社会、環境をめぐる地球規模の課題が深刻化する中、「持続可能な開発目標（SDGs）^{※2}」の達成を目指し、世界中の国や企業、市民団体等が取組を進めています。そこで、横浜はもとより日本の歴史や伝統文化を深く理解し、また、世界で起きている出来事にも幅広く関心を持ち、持続可能な社会の実現に向けて身近なところから行動する力を育みます。

○進取の精神を持ち、新たな価値を創造しようとする態度

横浜には開港以来、国内外から人が集まり、常に新しい技術や文化を積極的に取り入れていく進取の精神が育まれてきました。急速に変化する社会では、その先に起こる変化を予測し、行動することで、新たな未来を切り開いていくことが求められます。そのため、横浜がこれまで培ってきた進取の精神や国際都市としての多様性を強みとし、既成概念や慣習を打破してイノベーションを起こすなど、新たな価値を創造しようとする態度を育みます。

※2 2015（平成27）年9月「国連持続可能な開発サミット」にて、全会一致で採択された開発目標。先進国を含む、国際社会全体の目標として、2030年を期限とする包括的な17の目標を設定している。

3

横浜の教育の方向性

多様性を尊重し、つながりを大切にした教育を推進します

「自ら学び 社会とつながり ともに未来を創る人」を目指して、多様な価値観や個性を尊重し、子どもや学校を取り巻く、様々な「ひと、もの、こと」のつながりを大切にします。その上で、次の四つの方向性に沿って施策や取組を進めます。そのために、学校や行政だけでなく、家庭、地域、関係機関、企業等、子どもの成長に関わる人が、方向性を共有し、一体となって教育を推進します。

1 子どもの可能性を広げます

□主体的な学びを引き出し、様々な教育的ニーズに応じて、個性や能力を伸ばします。

- 子ども自身が興味を持って積極的に学ぶとともに、学習活動を振り返って次につなげることができるよう授業改善を推進します。そのために、エビデンスに基づいた指導・支援を行うとともに、ICTをはじめとするテクノロジーの効果的な活用、調査研究の充実等を図ります。
- 特別支援教育や日本語指導、登校支援など、学習や発達を取り巻く教育的ニーズに応じて、連続性のある多様な学びの場が用意されていることや、多様な個性や能力を伸ばす視点を重視します。

□よりよい社会や新たな価値の創造に向け、学びを社会と関連付け、他者と協働する機会を創出します。

- 学んでいることを社会と関連付け、自分の思いや考えを基に身近な生活をよりよくしたり、自分の未来や持続可能な社会のあり方について考えを広げ深めたりする機会を創出します。
- 知識や経験を相互に関連付けながら課題解決を図る機会や、他者と協働し、試行錯誤しながら物事を成し遂げる機会を創出します。

□相手と心から向き合うこと(想)を大切に、多様な価値観を認め、支え合う風土を醸成します。

- 人権教育の充実や「考え、議論する道徳」の展開、いじめのない風土づくりに向けた取組等を通して、子どもが相手と心から向き合うことを大切にします。
- 集団の中で目標に向かって力を合わせ、ぶつかり合い、わかり合い、励まし助け合うことを通して、個々の違いを認め合いながら、ともに学び育つ風土づくりを進めます。

□幼児期から社会的自立までの成長過程における学びや育ちの連続性を大切にします。

- 幼児教育から高等教育までを視野に入れ、目指す子どもの姿や育む力を共有し、前の段階での教育が次の段階で活かされるよう、教育課程等の効果的で円滑な接続を図ります。
- 小中一貫教育を一層推進するとともに、幼保小中高の連携を進めていきます。
- 社会的自立に向けて、発達の段階に応じたキャリア教育を進めていきます。

2 魅力ある学校をつくります

□教職員が子どもの理解を深め、いじめなどの課題をチームで解決し、安心して学べる学校をつくります。

- 子どもの思いをしっかりと受け止め、安心して学ぶことができる学校をつくります。そのために、いじめや不登校など、複雑化・困難化する児童生徒指導上の課題について、個人で対応するのではなく、児童支援・生徒指導専任教諭を中心としたチームによる指導・支援を進めます。
- 校長のマネジメント力や危機管理能力の向上により、迅速かつ適切な判断のもと、カウンセラーやスクールソーシャルワーカー、弁護士や医師等の専門家を積極的に活用し、子どもの抱える課題のよりよい解決を図ります。

□地域や社会と目標を共有し、連携・協働することを通して、子どもと社会がつながる学校をつくります。

- 「よりよい学校教育を通してよりよい社会を創る」という目標を学校と社会が共有し、連携・協働しながら、新しい時代に求められる資質・能力を子どもたちに育むという考え方にに基づき、学校運営協議会等を活用しながら、「社会に開かれた教育課程」を実現します。
- 子どもや地域の実態を踏まえて設定する学校教育目標を実現するため、校長のリーダーシップのもと、学校全体として、教科等や学年を超えて教育活動や組織運営の改善を図っていきます。
- 各学校の自主的・自律的な学校運営を尊重しながら、学校や子ども、地域の実態を踏まえた支援をしていきます。

□子どもが豊かに学び育ち、教職員がいきいきと働くことができる学校をつくります。

- 働きやすい環境の整備等に向けた業務改善の取組とともに、ワーク・ライフ・バランスを着実に推進し、教職員が働きがいを感じながら心身ともに健康でいきいきと働くことで、教育の質を向上させ、子どもが豊かに学び育つことができる学校をつくります。
- 学校の業務改善支援、専門スタッフの配置や教職員の担うべき業務の精選等、教職員の働き方改革を進めることにより、教職員が子どもとしっかり向き合う時間が確保できる、魅力的で持続可能な環境を目指します。

□教職員は自ら学び続け、資質・能力の向上を図り、使命感や情熱を持って職責を果たします。

- 全ての学校管理職・教職員が、学校の置かれた状況の変化に対応し、よりよい学校を作っていくために、人材育成指標等に基づき、自身のキャリアステージに応じて自ら学び続け、不断の努力を重ねながら、教育に対する使命感と情熱を持って職責を果たしていきます。
- 採用方法の改善により、より優れた人材を確保していくとともに、大学との連携・協働の推進等により、教員の養成と育成をより一体的に進めていきます。あわせて、校内OJT・メンターチームの活動支援や、研究、研修の充実を図ることにより、意欲と能力を最大限に発揮できる人材育成をより一層進めます。

3 豊かな教育環境を整えます

□学校施設の計画的な建替えや保全等を進め、子どもの安全・安心を確保します。

- 「横浜市立小・中学校施設の建替えに関する基本方針」に基づき、築70年を超えない範囲で、計画的に学校施設の建替えを進めます。
- 学校施設の建替えや老朽化対策にあたっては、子どもの教育環境の向上を第一に考え、子どもが安全に、安心して、そして快適に過ごすことができる環境を整備します。

□地域とともに子どもをよりよく育む教育環境を整えます。

- 学校は、子どもが多く時間を過ごす学習・生活の場であるとともに、地域の防災や生涯学習等にも活用され、地域におけるまちづくりの様々な役割を担っていく場になります。
- 学校施設の建替え時には、建替えでなければ解消できない施設の機能面の課題解決のほか、学校規模の適正化の検討や、教育効果の向上が見込むことのできる他施設との複合化等について留意し、地域とともに子どもをよりよく育むための教育環境を整えます。

□生涯にわたって主体的に学び、心豊かな生活につながるよう、市民の学びの環境を整えます。

- 市民が自分の興味や関心に応じて主体的に学び続け、心豊かな生活につながるよう、読書活動の推進や図書館サービスの充実、横浜の歴史に関する学習の場の充実を図ります。
- 市民の貴重な財産を次世代に引き継ぐため、文化財の保護・保全を進めるとともに、大人や子どもの学習の場としての活用や観光資源としての魅力向上を図ります。
- 市民が身近な課題に気づき、解決に向けて主体的に行動していくことができるよう、「学び」と「活動」の循環を支援します。

4 社会全体で子どもを育みます

□家庭は子どもの心身の調和のとれた発達、自立心の育成、生活習慣の確立を図り、行政は家庭教育を支援します。

- 子どもは、保護者など特定の大人との継続的な関わりの中で、愛され、大切にされることで、生きる上での基盤となる基本的信頼感を育んでいきます。これを踏まえ、家庭は子どもの心身の調和のとれた発達を図り、自立心の育成や生活習慣の確立に努めます。
- 家族形態の変容や地域のつながりの希薄化など、家庭での教育を行うことが困難な状況が指摘されています。行政は、各家庭の自主性を尊重しつつ、地域や学校、幼児教育施設等と連携し、保護者への学習の機会及び情報の提供を進め、保護者どうしのつながりや地域との交流を促進することにより、保護者が安心して、家庭での教育を行うことができるよう支援します。

□学校、家庭、地域をはじめ、国内外の様々な関係機関や企業等が連携・協働し、子どもを育みます。

- より多くの保護者や地域住民等が学校運営に積極的に参画することで、地域と学校が双方向で関わる協働活動を推進するとともに、市長部局や警察等関係機関との連携強化により、登下校時の安全確保等を図りながら、地域全体で子どもを育みます。
- 地域人材だけでなく、国内外の教育機関や企業、民間団体等と子どもの成長に向けた目標を共有しながら連携・協働し、教育内容の充実を図ります。
- 子どもが積極的に地域や社会に参画して課題解決に向けて本気で取り組むことを推進し、子どもの挑戦する姿を厳しくもあたたかく受け止めてくれるような地域コミュニティを形成していくことで、人づくりと地域づくりの好循環を生み出していきます。

□教育と福祉、医療等の連携により、子どもを切れ目なく支援し、自立と社会参画に向けた学びや発達を保障します。

- 全ての子どもの豊かな学びや育ちのため、教育と福祉、医療等が連携し、貧困や児童虐待など、様々な課題を抱える子ども一人ひとりに寄り添って支えます。
- 学校だけでは解決が困難な課題においては、学校と幼児教育施設や区役所、児童相談所、地域療育センター、医療機関、地域の団体等が連携し、役割分担をしながら切れ目なく支援することにより、子どもの自立と社会参画に向けた学びや発達の保障につなげていきます。

「横浜教育ビジョン2030」の策定趣旨

横浜市教育委員会では、2004（平成 16）年に横浜教育改革会議を設置し、教育基本法改正や学習指導要領改訂に先駆けて、横浜における教育のあり方と改革の方向性について検討を行い、2006（平成 18）年に「横浜教育ビジョン」を策定しました。「横浜教育ビジョン」の中で、子どもを育成する際に大切にしたい視点として示した「知」「徳」「体」「公」「開」は、各学校の教育目標や中期学校経営方針^{※3}にも明記されるなど、教職員に広く浸透しています。国が示す「知」「徳」「体」に加え、横浜らしさである「公」「開」を設定して教育を推進したことにより、地域や社会に貢献しようとする態度の育成や、共生の意識の醸成が進んでいると考えられます。

「横浜教育ビジョン」策定から概ね 10 年が経過し、子どもや学校を取り巻く環境は大きく変化しました。さらに、国内外では 2030 年頃の社会を見据えた議論が活発化し、国から新学習指導要領が示され、「社会に開かれた教育課程」が打ち出されたところです。そこで横浜市教育委員会は、未来の社会の姿や新学習指導要領の考え方を踏まえ、「横浜教育ビジョン」を礎とした新たなビジョンを策定することとしました。検討にあたっては、「横浜市立学校カリキュラム・マネジメント要領」^{※4}の策定と連動をはかりながら、学校現場や他区局職員から幅広く意見を聞き、様々な分野で活躍する外部有識者から助言をいただきました。また、パブリックコメントを実施し、市民の皆様のご意見を踏まえ策定しました。「横浜教育ビジョン 2030」は、小・中・高等学校段階の学校教育を中心に、「横浜の教育が目指す人づくり」、「横浜の教育が育む力」、「横浜の教育の方向性」を示します。

※3 各学校が、学校教育基本目標の達成に向けて、3年間の学校経営方針や取組を示したものです。

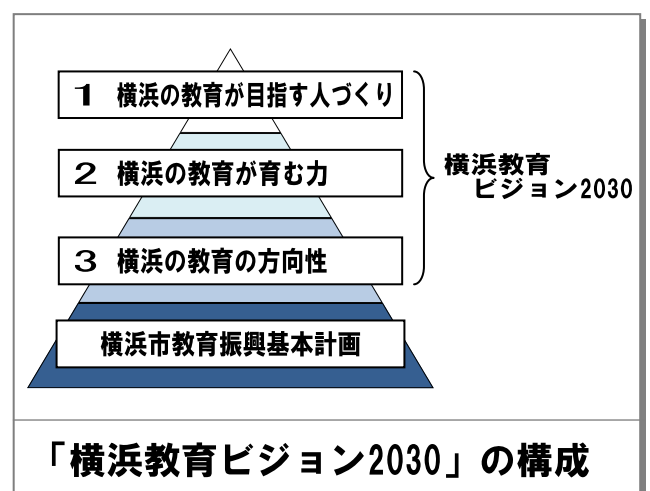
※4 各学校が教育課程を編成・実施・評価・改善していく際の拠りどころとなるもの。

「横浜教育ビジョン2030」の推進

「横浜教育ビジョン 2030」を具現化する施策や取組は、今後の「横浜市教育振興基本計画」^{※5}で示します。

「横浜市教育振興基本計画」では、具体的な指標を設定し、PDCA サイクルに基づき着実に取組を進め、検証を行います。

各学校は「横浜教育ビジョン 2030」や「横浜市教育振興基本計画」を踏まえ、子どもの発達段階や、学校、地域の状況に応じて学校教育目標を設定します。



※5 教育基本法第 17 条第 2 項に基づき、横浜市における教育の振興のための施策に関する基本的な計画を定めるもの。

～ともに未来を創る～

人口減少社会の到来やグローバル化の一層の進展とともに、第4次産業革命によって、進化した人工知能が様々な判断を行うなど、社会や生活が大きく変わっていくとの予測がなされています。

このような時代だからこそ、解が一つではない課題等にも主体的に向き合い、人間ならではの感性をはたらかせることが必要となります。自分の可能性を発揮し、よりよい社会と幸福な人生を創っていくことのできる力を育むことが重要です。

また、「持続可能な開発目標（SDGs）」の達成を目指し、世界中の人々が取組を進めています。地域や社会の将来を自分事と捉え、誰もが自分らしく活躍できるというインクルーシブな視点をもって、多様な人々と協働し、共生する力を育むことも重要です。

大きく変化する時代を見据え、「横浜教育ビジョン2030」は、「自ら学び 社会とつながり ともに未来を創る人」の育成を目指します。このビジョンを、子どもの成長に関わる人（学校、家庭、地域、関係機関、企業等）で広く共有し、社会全体で子どもたちを育み、ともに未来を創っていきましょう。



平成 年 月発行 横浜市教育委員会事務局 教育政策推進課

〒231-0017 横浜市中区港町1-1

電話 045-671-3243 FAX 045-663-3118

URL <http://www.city.yokohama.lg.jp/kyoiku/vision/>

■パブリックコメント実施結果

(1) 意見提出状況

投稿数 88 通 意見数 239 件

投稿手段	通数
電子メール	77
FAX	3
郵送	8
計	88

居住地	通数
市内	58
市外	4
不明	26
計	88

年齢	通数
10歳代	0
20歳代	1
30歳代	4
40歳代	10
50歳代	20
60歳代	11
70歳代	5
80歳代以上	3
不明	34
計	88

(2) 項目別意見数

施策体系	意見数
1 横浜の教育が目指す人づくり	13
2 横浜の教育が育む力	46
3 横浜の教育の方向性	
1 子どもの可能性を広げます	26
2 魅力ある学校をつくります	44
3 豊かな教育環境を整えます	21
4 “オール横浜”で子どもを支えます	24
横浜教育ビジョン 2030 について	1
横浜教育ビジョン 2030 の推進	4
横浜教育ビジョン 2030 において重視する点	2
全体に関するご意見	27
その他	31
合計	239

(3) ご意見への対応状況

	対応状況	意見数	割合
ア	ご意見を反映し、素案を修正したもの	8	3.3%
イ	素案と同趣旨及び賛同いただいたもの	33	13.8%
ウ	ご意見として参考とさせていただいたもの	196	82.0%
エ	その他	2	0.8%

※ 全体の意見数（239件）に対する割合については、小数点第二位を四捨五入しています。

端数処理の関係で合計が100%とならない場合があります。

(4) 意見一覧及び意見に対する考え方・対応

別紙2 参考資料のとおり。

■意見一覧及び意見に対する考え方・対応

No.	項目	頂いたご意見（概要）	対応状況	ご意見に対する考え方
1	1 横浜の教育が目指す人づくり	・1 横浜の教育が目指す人づくりについて、世界との玄関口横浜にとって、まず人としての命を貰ったからには、自分自身を慈しみ、大切にできる人になることが重要である。それが「未来を創る人」になる。	賛同	○5頁「横浜の教育が育む力」の「徳」の解説に、自分をかけがえのない存在として大切にすることを示しています。頂いたご意見を踏まえながら、今後も教育施策を推進してまいります。
2	1 横浜の教育が目指す人づくり	・横浜の教育が目指す人づくりには共感する。子どもが主体的に考え、意欲的に学び続ける力をつけるということにも賛成である。その力をつけるには探求的に学ぶことが必要であり、そのような学びのためには学校図書館の活用が必要と考える。	賛同	○頂いたご意見を踏まえながら、今後も教育施策を推進してまいります。
3	1 横浜の教育が目指す人づくり	・人は行政がつくるものではない。「横浜の教育が目指す人づくり」ではなく、「横浜が目指す教育」にすべきである。	参考	○「横浜教育ビジョン 2030」における「人づくり」とは、人を予定された形に仕立てることではなく、「自ら学び 社会とつながり ともに未来を創る人」へと自ら成長していけるよう支えることと考えています。子どもたちを、学校、家庭、地域等が連携・協働しながら育ていけるよう、「横浜教育ビジョン 2030」の目指す理念や方向性を明確にし、子どもの成長に関わる人と広く共有したいと考えます。多様な価値観や個性を尊重しながら、横浜だけでなく、ともに未来を創る人を育てていきます。
4	1 横浜の教育が目指す人づくり	・人は行政がつくるものではない。「横浜の教育が目指す人づくり」ではなく、「横浜が目指す教育」にすべきである。	参考	○「横浜教育ビジョン 2030」における「人づくり」とは、人を予定された形に仕立てることではなく、「自ら学び 社会とつながり ともに未来を創る人」へと自ら成長していけるよう支えることと考えています。子どもたちを、学校、家庭、地域等が連携・協働しながら育ていけるよう、「横浜教育ビジョン 2030」の目指す理念や方向性を明確にし、子どもの成長に関わる人と広く共有したいと考えます。多様な価値観や個性を尊重しながら、横浜だけでなく、ともに未来を創る人を育てていきます。

No.	項目	頂いたご意見（概要）	対応状況	ご意見に対する考え方
5	1 横浜の教育が目指す人づくり	<p>・教育によって人がつくられるのではなく、恵まれた環境の中で自由活発な行動が人間と自然の調和によって育まれるのではないかと。「横浜教育ビジョン2030」の素案の制作費用（税金）は教育委員会の皆さんの給料か。校長先生を経験した皆様は一般市民にボランティア活動と呼びかけるのだけではなく、教育委員会より重要な地域の人々とのボランティア活動に参加して、教育現場の改革に力を注いだ方が真の教育が見い出せるのではないかと。児童貧困をどうしたら無くせるか？学校の先生たちがどんなに大変な環境で働いているか？教育委員の皆様には想像が難しいのだろうか？育ち盛りの中学生の学校給食はぜひ「横浜教育ビジョン2030」に掲げてほしいと思う。全ての人間はそれぞれ豊かな個性と能力を持って生まれているから、その可能性の芽を摘まないように教育することが重要と考える。</p>	参考	<p>○「横浜教育ビジョン2030」における「人づくり」とは、人を予定された形に仕立てることではなく、「自ら学び 社会とつながり ともに未来を創る人」へと自ら成長していけるよう支えることと考えています。子どもたちを、学校、家庭、地域等が連携・協働しながら育ていけるよう、「横浜教育ビジョン2030」の目指す理念や方向性を明確にし、子どもの成長に関わる人と広く共有したいと考えます。多様な価値観や個性を尊重しながら、横浜だけでなく、ともに未来を創る人を育てていきます。現在、中学校昼食は、ライフスタイルに合わせて「ハマ弁」「家庭弁当」「業者弁当」の3つから等しく選べる「選択制」の充実に取り組んでいます。頂いたご意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。</p>
6	1 横浜の教育が目指す人づくり	<p>・綺麗事ばかり書いてある。横浜の「人づくり」に違和感がある。知徳体には公と開をプラスしたとの事だが、横浜を愛せよみたいな「公」は上からの押し付けで気持ち悪い。先生の負担軽減などの今喫緊の具体策も無し。学校は作られちゃう場所なのだろうか？市民や校長会の要望をおざなりにして教育文化センターを売却、教科書採択も非公開、教育委員会会議の中継も無し、お粗末な教育委員会に失望したが、ビジョンもかなりお粗末。子どもたち1人1人を大事にし、子どもたちが伸び伸びと育つ環境を整える使命を大人達が全うすれば、子どもたちの笑顔に私たちが教えられる、というような「社会づくり」を考えるべきではないか。</p>	参考	<p>○「横浜教育ビジョン2030」における「人づくり」とは、人を予定された形に仕立てることではなく、「自ら学び 社会とつながり ともに未来を創る人」へと自ら成長していけるよう支えることと考えています。子どもたちを、学校、家庭、地域等が連携・協働しながら育ていけるよう、「横浜教育ビジョン2030」の目指す理念や方向性を明確にし、子どもの成長に関わる人と広く共有したいと考えます。多様な価値観や個性を尊重しながら、横浜だけでなく、ともに未来を創る人を育てていきます。教職員の働き方改革は大変重要と考え、8頁「教育の方向性」の「2 魅力ある学校づくり」の解説に示しています。具体的な取組については、「横浜市立学校教職員の働き方改革プラン」に沿って進めてまいります。教育センターはこれからの横浜の教育を支える研究・研修拠点として、新たな施設の確保について検討を進めます。頂いたご意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。</p>

No.	項目	頂いたご意見（概要）	対応状況	ご意見に対する考え方
7	1 横浜の教育が目指す人づくり	<p>・横浜が目指す「人づくり」とはなにか。人をつくるといって、何か型にはまった工業品を製造していくようだ。「自ら考え、判断・行動し、激動の時代を生き抜く総合的な力を身につけていきます。」とあるが、矛盾していないか。自ら考えて判断行動するという事は、多様性、ひとりひとりを尊重することで生まれてくる。</p>	参考	<p>○「横浜教育ビジョン2030」における「人づくり」とは、人を予定された形に仕立てることではなく、「自ら学び 社会とつながり ともに未来を創る人」へと自ら成長していけるよう支えることと考えています。子どもたちを、学校、家庭、地域等が連携・協働しながら育ていけるよう、「横浜教育ビジョン2030」の目指す理念や方向性を明確にし、子どもの成長に関わる人と広く共有したいと考えます。多様な価値観や個性を尊重しながら、横浜だけでなく、ともに未来を創る人を育てていきます。</p>
8	1 横浜の教育が目指す人づくり	<p>・市民として、親としての教育ビジョンについての意見である。「人づくり」という言葉に違和感がある。人はつくるものではなく、育てるもの。道具ではない。</p>	参考	<p>○「横浜教育ビジョン2030」における「人づくり」とは、人を予定された形に仕立てることではなく、「自ら学び 社会とつながり ともに未来を創る人」へと自ら成長していけるよう支えることと考えています。子どもたちを、学校、家庭、地域等が連携・協働しながら育ていけるよう、「横浜教育ビジョン2030」の目指す理念や方向性を明確にし、子どもの成長に関わる人と広く共有したいと考えます。多様な価値観や個性を尊重しながら、横浜だけでなく、ともに未来を創る人を育てていきます。</p>
9	1 横浜の教育が目指す人づくり	<p>・「横浜の教育が目指す人づくり」に「生き抜く力」を明記すべきである。文部科学省 中央教育審議会 教育課程企画特別部会 論点整理の中で、2030年の社会と子どもたちの未来の項目で「子どもたちには、自らの生涯を生き抜く力を培っていくことが問われる」と書かれている。少子高齢化・人口減少・相対的貧困・いじめ・虐待・自然災害・LGBTなどの様々な困難や課題に向き合い、自らが考え判断し行動する力を「生き抜く力」とし、明記してほしい。</p>	参考	<p>○複雑で変化の激しい時代において、解が一つではない課題にも柔軟に対応し、自分たちができることを考え、解決していくことが重要との認識に立ち、横浜の教育が目指す人づくりを「自ら学び 社会とつながり ともに未来を創る人」としていきます。その育成を目指し、子どもに身に付けてほしい力は、「横浜の教育が育む力」に示しています。</p>

No.	項目	頂いたご意見（概要）	対応状況	ご意見に対する考え方
10	1 横浜の教育が目指す人づくり	・「横浜の教育が目指す人づくり」を、「横浜が目指す教育体制」と改めてほしい。人づくりは、家庭や本人の意思、周りとの関係に任せてほしい。画一的な横浜の行政のために動く人間を多く作ろうというイメージを感じる。	参考	○「横浜教育ビジョン2030」における「人づくり」とは、人を予定された形に仕立てるのではなく、「自ら学び 社会とつながり ともに未来を創る人」へと自ら成長していけるよう支えることと考えています。子どもたちを、学校、家庭、地域等が連携・協働しながら育ていけるよう、「横浜教育ビジョン2030」の目指す理念や方向性を明確にし、子どもの成長に関わる人と広く共有したいと考えます。多様な価値観や個性を尊重しながら、横浜だけでなく、ともに未来を創る人を育てていきます。
11	1 横浜の教育が目指す人づくり	・教師に「不断の努力」とか「自ら学び続ける」とか「情熱をもて」など、こんな精神論でカリキュラムは成り立たない。10年のビジョンが全く見えてこない。人は行政がつくるものではない。「横浜の教育が目指す人づくり」ではなく、「横浜が目指す教育」にすべきである。	参考	○「横浜教育ビジョン2030」における「人づくり」とは、人を予定された形に仕立てるのではなく、「自ら学び 社会とつながり ともに未来を創る人」へと自ら成長していけるよう支えることと考えています。子どもたちを、学校、家庭、地域等が連携・協働しながら育ていけるよう、「横浜教育ビジョン2030」の目指す理念や方向性を明確にし、子どもの成長に関わる人と広く共有したいと考えます。多様な価値観や個性を尊重しながら、横浜だけでなく、ともに未来を創る人を育てていきます。「横浜教育ビジョン2030」の実現に向け、具体的な取組は「横浜市教育振興基本計画」に示してまいります。
12	1 横浜の教育が目指す人づくり	・全体に上から下への通達の印象が強くと、不快になる。横浜が（こういう）人をつくろうとするだなんて、何を勘違いしているのか。「全ての子どもが健康やかに成長し豊かに生きる…」という理念を一番最初に持ってこない、理念なきビジョンに見えてしまう。	参考	○「横浜教育ビジョン2030」における「人づくり」とは、人を予定された形に仕立てるのではなく、「自ら学び 社会とつながり ともに未来を創る人」へと自ら成長していけるよう支えることと考えています。子どもたちを、学校、家庭、地域等が連携・協働しながら育ていけるよう、「横浜教育ビジョン2030」の目指す理念や方向性を明確にし、子どもの成長に関わる人と広く共有したいと考えます。多様な価値観や個性を尊重しながら、横浜だけでなく、ともに未来を創る人を育てていきます。

No.	項目	頂いたご意見（概要）	対応状況	ご意見に対する考え方
13	1 横浜の教育が目指す人づくり	・「教育の方向性」にある主体的に考える力や多様性の尊重は大事にできればよいと思う。しかし、「知・徳・体・公・開」の内容は「横浜の教育が目指す人づくり」とあるとおり、こうあるべきという理想の型を子どもにはめようとしていることばかりに見える。それは主体的に考える力、多様性の尊重とは反対の方向へ行っているのではないか。	参考	○「横浜教育ビジョン2030」における「人づくり」とは、人を予定された形に仕立てるのではなく、「自ら学び 社会とつながり ともに未来を創る人」へと自ら成長していけるよう支えることと考えています。子どもたちを、学校、家庭、地域等が連携・協働しながら育ていけるよう、「横浜教育ビジョン2030」の目指す理念や方向性を明確にし、子どもの成長に関わる人と広く共有したいと考えます。多様な価値観や個性を尊重しながら、横浜だけでなく、ともに未来を創る人を育てていきます。
14	2 横浜の教育が育む力	・規律礼節を考えることをもっと前面に出すべきではないか。人間関係にはルールがあることを、本人の気付きに頼るのではなく、きちんと教えるべきである。	参考	○「自分を律する態度」は大変重要と考え、「横浜の教育が育む力」の「徳」に示しています。頂いたご意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。
15	2 横浜の教育が育む力	・中学校給食を実現してほしい。食育は成長期の子どもにとって大きな意味を持っており、教育の重要な課題として取り組んでほしい。	参考	○食については大変重要と考え、5頁「横浜の教育が育む力」の「体」の解説に記載しています。市の中学校昼食につきましては、早期に全校で実施ができることや、施設整備費が大幅に抑えられること、中学校の日課への影響を最小限に抑えられることなどを検討した結果、ライフスタイルや日々の都合に合わせてハマ弁、家庭弁当、業者弁当を選択できる仕組として実施しています。頂いたご意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。
16	2 横浜の教育が育む力	・「知」「徳」「体」「公」「開」のポイントについては、青少年はもちろんのこと社会に出た大人でも生涯五つの視点を心に留めて生きていく事が大切であると感じた。ある学校で、「与えられた能力を伸ばし、自己の使命に生き、他者にとって光と喜びとなるように人々と痛みを分かち合いつつ、正義と愛に基づく社会の変革に貢献する人となるようめざす」という教育ビジョンに接し、教育の根源にふれた気持ちになった。	賛同	○頂いたご意見を踏まえながら、今後も教育施策を推進してまいります。

No.	項目	頂いたご意見（概要）	対応状況	ご意見に対する考え方
17	2 横浜の教育が育む力	・公について、重要性は分からないがインパクトはあっていいと思う。しかし、それぞれの育む力を実際の学校現場で、具体的にどのように育むのか分からない。	参考	○「横浜教育ビジョン2030」の実現に向け、具体的な取組については、「横浜市教育振興基本計画」及び「横浜市立学校カリキュラム・マネジメント要領」に示してまいります。
18	2 横浜の教育が育む力	・公について、重要性は分からないがインパクトはある。しかし育む力について、具体的にどのように育むのか分からない。	参考	○「横浜教育ビジョン2030」の実現に向け、具体的な取組については、「横浜市教育振興基本計画」及び「横浜市立学校カリキュラム・マネジメント要領」に示してまいります。
19	2 横浜の教育が育む力	・横浜の教育が育む力について、「自ら学び 社会とつながり ともに未来を創る人」の育成には、語呂合わせが悪いが、「体」「徳」「知」「開」「公」の順ではないか。	参考	○「横浜の教育が育む力」は、子どもに身に付けてほしい力を5つの視点で表し、相互に関連付けながらバランスよく育てていきます。それぞれの要素に優劣はないと考えています。
20	2 横浜の教育が育む力	・自らの知（学力）を自ら自覚できるような教育を展開すべきである。	賛同	○自らの知について自覚する力は大変重要と考えます。「横浜の教育が育む力」では、自ら問題を発見することや、筋道を立てて主体的に考えること、自分を見つめること等を示しています。頂いたご意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。
21	2 横浜の教育が育む力	・知識は教育を受けていく段階で、どの分野においても基礎的なこと。単に知識だけに終始せず、知識と実習をセットにして習得させることが大切である。	賛同	○知識や経験を相互に関連付けながら学ぶことは大変重要と考え、4頁「横浜の教育が育む力」の「知」の解説に、知識を相互に関連付けることや、学びを人生や社会とつなげることを示しています。頂いたご意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。
22	2 横浜の教育が育む力	・「自ら問題を見つけ、解決する力」は以前から言われているのに、なぜ育っていないのか。子どもたちは、自ら見つけていく知を求めている。そんな知りたい欲求・楽しく学ぶ授業になっていない。分からないところをあきらめさせない、見放さない指導の体制を作ってほしい。	参考	○7頁「教育の方向性」の「1 子どもの可能性を広げます」の解説において、子ども自身が興味を持って積極的に学ぶことができるよう授業改善を推進するとしています。具体的な取組は、「横浜市教育振興基本計画」及び「横浜市立学校カリキュラム・マネジメント要領」に示します。

No.	項目	頂いたご意見（概要）	対応状況	ご意見に対する考え方
23	2 横浜の教育が育む力	・主体的に考え、意欲的に学び続ける力が、どうして育たないで来ているのか。学校現場でも意識されているのに、スローガン倒れになっている。教師と子どもの真剣なぶつかり合いの中で授業を組み立てていく余裕と、自由がない。学年教職員集団、学校教職員集団の英知が、子ども一人ひとりの学びに向き合っていない。1クラスの人数を減らすしかない。	参考	○教職員が子どもとしっかり向き合う時間の確保については大変重要と考え、8頁「教育の方向性」の「2魅力ある学校づくり」の解説に示しています。頂いたご意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。
24	2 横浜の教育が育む力	・先生たちの能力は、教科書を教えるのに手いっぱいなのではないか。また子どもたちの遊びが不足している中で、生活・社会とつなげて考えるかも弱い。市の教育課程のなかで学びを進めるためのヒントが少ないように思う。子どもたちの問題意識を受け止め、自分の学校らしさを出せるように支援していかないと、学校のカリキュラムは全市「金太郎あめ」のようになっている。総合学習が生かされていない学校にどういう対応をしてきたのか。	参考	○総合的な学習の時間の充実に向け、「横浜市立学校カリキュラム・マネジメント要領」を活用し、各学校を支援していきます。頂いたご意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。
25	2 横浜の教育が育む力	・横浜市は「自分にはよいところがある」と答えた小中学生の割合が全国より低いとのことだが、首都圏で恵まれた環境にありながら自分の良さを認められていないということは、家庭や学校で画一的な価値観で子どもたちが評価又は判断されているからではないか。一人ひとりが個性を認められれば、主体的に自分の進む道を確立できるのではないか。「人への思いやり」は、本人の経験からのみ育ち、体得できるものなので、人間が成長する長いスパンで形成されるものだと思う。また、青少年には何が「本物」といえるのか分からない段階だと思う。どのようなものが成長過程で、豊かな感性につながるのか、家庭や学校で親や教員が提示すべきである。	賛同	○多様な価値観や個性を尊重することは大変重要と考え、7頁「教育の方向性」の解説に示しています。頂いたご意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。
26	2 横浜の教育が育む力	・学校からいじめがなくなっても、社会からいじめや偏見をなくすことはできないのだから、跳ね返す力をつけた方がよい。子どもたちはこうした現実に向き合いながら生きていかなければならない。	参考	○「横浜の教育が育む力」の「徳」では、「自分を大切に、しなやかに生きる力」を示しています。「横浜市いじめ防止基本方針」に基づき、いじめのない社会の実現を目指し、取組を進めてまいります。

No.	項目	頂いたご意見（概要）	対応状況	ご意見に対する考え方
27	2 横浜の教育が育む力	・「徳」の「自分を大切にし、しなやかに生きる力」について、自己肯定感を大切にするのは本当に大切であるが、どうして育っていないのか。「そのため」と言いながら、方針が書かれていない。学力評価が人間評価になっている子ども世界をどう受け止めているのか。その子らしい良さが評価されていない。自分らしく人として生きる喜びを認め合う環境づくりを政策として作らない限り、自己肯定感が育つ基盤ができない。一番相談相手になれる担任教師が、子どもの悩みに気づき、励ませる環境ができていないのか。	参考	○「自分にはよいところがある」と答える横浜市の小中学生の割合は、10年前と比較して増加しています。引き続き、自己理解を深め、自分を大切にする心を育てていきます。また、教職員が子どもとしっかり向き合う時間の確保については大変重要と考え、8頁「教育の方向性」の「2 魅力ある学校づくり」の解説に示しています。具体的な取組については、「横浜市立学校教職員の働き方改革プラン」に沿って進めてまいります。頂いたご意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。
28	2 横浜の教育が育む力	・今日の社会が、子どもたちに、「自分の主体的な判断」をどこまで認めているのか。子どもの権利条約にある「意見表明権」を認めることが、子どもの発達に必要不可欠であるが、子育て世帯に浸透していない。学校が率先して実践し、保護者、地域に示す必要がある。道徳教育が、お仕着せの授業になってつまらないのも、子どもの自由な意見表明になっていないからである。子ども期は、子どもらしい失敗をいっぱいやって、自分らしい生き方を見つけ出していくものである。	参考	○「横浜教育ビジョン2030」では、子どもの主体性が大変重要であると考え、人づくりをはじめ、様々な部分に示しています。効果的な周知方法を検討し、「横浜教育ビジョン2030」の内容を広く発信してまいります。子どもが問題意識をもって学習に臨み、ねらいとする道徳的価値を追求し、多様な考え方や感じ方によって学ぶことができるように、問題解決的な学習などの指導方法を工夫することが大切だと考えます。各学校で「考え、議論する道徳」を実践していけるよう、事務局としても支援してまいります。
29	2 横浜の教育が育む力	・様々な「本物」に触れる体験を大切にするのは同感であるが、その環境づくりに成功しているのか。子どもたちの内なる自然を揺り動かす世界を作り出させる方針を作してほしい。「文化活動に接する機会」とあるが、学校には外部人材を招く予算がない。司書の身分保障をしっかりと、子どもの情報発信基地を支えるようにしてほしい。	参考	○「本物」に触れることで育む豊かな感性については、学校、家庭、地域、関係機関等が連携し、横浜ならではの資源を活用しながら育てていくと考えています。頂いたご意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。

No.	項目	頂いたご意見（概要）	対応状況	ご意見に対する考え方
30	2 横浜の教育が育む力	・「生涯にわたって運動やスポーツに親しむ態度」という表現だと、そのような心構えを育んでいくというメッセージに受け取れる。しかし、運動やスポーツに親しめない人に運動やスポーツに親しみましょうと言っても押し付けになってしまい、反発されてしまうと思う。大切なことは学校教育を通して、子どもたちが社会に出てからも運動やスポーツを続けたいと思えるよう、運動やスポーツに内在する楽しさ知ること、運動やスポーツを行うための基礎的な動きを獲得することだと思う。学校教育で「親しむ」ことを教えるのではなく、「親しむ」ことができる素養が育まれるよう、検討してほしい。	反映	○体を動かす楽しさや心地よさを味わうことは大変重要と考え、5頁「体力づくりを通し、心身ともにたくましく生きる力」の解説に示しています。「生涯にわたって運動やスポーツに親しむ態度」については、「する」だけでなく、「みる、支える、知る」という運動やスポーツへの多様な関わり方についても視野に入れ記載をしておりますが、頂いたご意見を踏まえ、学校体育だけでなく、関係機関や企業等と連携した幅広い取組により、運動等に親しむ態度を育んでいくこととしました。
31	2 横浜の教育が育む力	・食の大切さをもっと認識していくべきであり、体力はまずきちんと食することで意欲や気力といった精神面の充実が得られるということを追記した方が良い。	参考	○食については大変重要と考え、5頁「横浜の教育が育む力」の「体」の解説に記載しています。頂いたご意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。
32	2 横浜の教育が育む力	・「横浜教育ビジョン2030」を読んで、はて自分は、と思うとはずかしくなった。特に「体」。食事の大切さや、規則正しい生活習慣、運動習慣が大切なのはよくわかっているけど、そういう生活を送れるように自分をコントロールすることは難しいとつくづく思う。子どもに強いてもいいのかとってしまう。でも、子どものうちからしっかり教えておくことは必要なんだろうと思った。	賛同	○頂いたご意見を踏まえながら、今後も教育施策を推進してまいります。
33	2 横浜の教育が育む力	・「生涯にわたって運動やスポーツに親しむ態度」について、プロの選手が学校に来て、スポーツの楽しさ、夢を持ち、挑戦する生き方を伝えてくれる活動は素晴らしい。もっと活動してほしい。	賛同	○横浜市立学校においては、オリンピック・パラリンピアン等を招へいし、子どもたちにスポーツの楽しさ、夢を持ち、挑戦する生き方を伝えていきます。「徳」においても、「本物」に触れることで豊かな感性を育むことを示しています。

No.	項目	頂いたご意見（概要）	対応状況	ご意見に対する考え方
34	2 横浜の教育が育む力	・「体 健やかな体」において、食生活の重要性を明記し、具体的な内容や目標を標記してほしい。	参考	○「食生活の大切さを理解すること」は大変重要と考え、5頁「自ら健康を保持増進しようとする態度」の解説に示しています。具体的な取組等については、教育振興基本計画策定にあたって、検討してまいります。頂いたご意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。
35	2 横浜の教育が育む力	・スポーツ以外でも自然の中での遊びの中で体を鍛えるということが、時間的にも以前に比べて少なくなっている。徳とも関連するが、自然の中で遊ぶことで学ぶ機会が今の子どもたちには失われている。修学旅行は金銭的に参加できない生徒もいる。地元の登山やキャンプの方が、体力づくりにもなり、また、地域や社会のために人と協力して行動する「公」の視点も養われるのではないか。	参考	○自然との触れ合いを通じて学ぶことは大変重要と考え、5頁「横浜の教育が育む力」の「徳」の解説に、身近な自然から得られる発見や感動について示しています。頂いたご意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。
36	2 横浜の教育が育む力	・一番忘れ去られている「健やかな体づくり」を自分づくりの一番にしたい。命をいただいた時から、優しく、安心して連続的に育つ環境を整備してほしい。自然観察の森のような自然がいっぱいの環境、安全な通学路、安心して活動できる自転車路、事故が人義的に起きないような100年の都市計画の中に、子ども政策を位置付けるべきである。	参考	○「横浜の教育が育む力」は、子どもに身に付けてほしい力を5つの視点で表し、相互に関連付けながらバランスよく育てていきます。それぞれの要素に優劣はないと考えています。また、9頁「教育の方向性」の「4 社会全体で子どもを育みます」の解説「横浜教育ビジョン2030」の実現に向け、市長部局や関係機関等との連携を強化することを記載しています。頂いたご意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。
37	2 横浜の教育が育む力	・「自ら健康を保持増進しようとする態度」は、余計なお世話と言いたい。子どもと一緒に遊び、豊かな食生活をしたくてもできない現状に対し、行政のやるべきことを無視して、市民・家庭・子どもに押し付けないでほしい。社会福祉の活動からも、政策を練り直してほしい。	参考	○頂いたご意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。

No.	項目	頂いたご意見（概要）	対応状況	ご意見に対する考え方
38	2 横浜の教育が育む力	<p>・子どもの運動能力の二極化現象について、原因分析があいまいである。子どもや親のせいになっている。「そのため」以降は、飛躍した内容になっている。子どもたちの生活の場としての場所がない。すべての区に、いつまでにするのか、数値的目標が出せるように示してほしい。また、プレイパークのような自由に遊べる子どもの本来的遊びを取り戻すために、冒険遊び場所のようなところをどう増やしていくのか。またそこに関わっている青年の身分保障も生活ができるようにしてほしい。子どもの見守り隊として、また、老後の生活場所としての大人の空間としても公園の在り方を検討してほしい。</p>	参考	<p>○子どもの運動習慣に関する課題について、原因分析をふまえた対策を行っていきます。「横浜の教育が育む力」で表す力については、各学校が子どもの状況等に応じて目標を設定し、取り組んでいきます。プレイパークや公園の在り方について、頂いたご意見を所管局と共有し、今後の取組の参考にさせていただきます。</p>
39	2 横浜の教育が育む力	<p>・「夢や希望を持ち、よりよい社会を創造しようとする態度」について、学校へ「様々な分野で活動する人」に来てもらい夢を語ってもらうことは、素晴らしいことと思う。しかし、夢を実現できる人は、数少ない。中学生の進路指導は、個性を生かせるようになっていくか。高校の多様化は、個性を生かした内容か。受験学力、偏差値指導をどう克服するのか？子どもの自尊心は伸びるのか。夢を叶えるための人間育ちができる環境を作ることが優先させられる必要がある。また、貧しさから、学びの機会を奪われている子ども達に対しての施策も必要である。</p>	賛同	<p>○9頁「教育の方向性」の「切れ目のない支援」の解説に、貧困や児童虐待など、様々な課題を抱える子ども一人ひとりに寄り添って支えることを示しています。頂いたご意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。</p>
40	2 横浜の教育が育む力	<p>・社会問題への関心や自分の社会参加について日本の若者の意識が諸外国に比べて低い状況であることは、日本があらゆる面で平和国家だからではないか。横浜の歴史的立ち位置を、もっと深く社会科で教えることが大切である。</p>	参考	<p>○頂いたご意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。</p>

No.	項目	頂いたご意見（概要）	対応状況	ご意見に対する考え方
41	2 横浜の教育が育む力	・問題を発見したあとに、きちんと対応すべき機能が横浜の教育委員会組織にはないと思うほど、教育委員会会議はお粗末。問題を解決する力は、まず、大人が見せるべきである。また、『公』の部分の「横浜を愛する。」について、自らが住んでる土地を嫌いにならないようにするのが、行政の役割ではないか。愛は強制できない。	参考	○教育委員会は、「横浜教育ビジョン2030」の実現に向け、しっかり取り組んでまいります。頂いたご意見は今後の取組の参考にさせていただきます。
42	2 横浜の教育が育む力	・「自分の役割や働くことの意義を理解し、行動する力」とあるが、根本的な問題は、子どもの問題ではなく、今の労働環境の厳しさにあるのではないか。また、不登校だった子や引きこもりだった子が、社会復帰して働こうと思っても、受け入れ・支えてくれる労働の場が少なすぎる。	参考	○頂いたご意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。
43	2 横浜の教育が育む力	・どうしたら「他者と協働しながら課題解決を図ること」ができると考えているのか。過密なカリキュラム、部活と塾が詰め込まれた生活に、入り込むすぎがあるのか。	参考	○「横浜教育ビジョン2030」の実現に向け、具体的な取組については、「横浜市教育振興基本計画」及び「横浜市立学校カリキュラム・マネジメント要領」に示してまいります。部活動につきましては、平成30年度より、各学校で部活動休養日を設定していきます。頂いたご意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。
44	2 横浜の教育が育む力	・地球環境の深刻化の問題は、一国にとどまらず、未来を切り開いていく青少年の肩にかかっている生命に関する問題であることを認識させるべきである。そのために、世界に向かって発信できる人間をあらゆる面から育てていかなければならない。また、グローバル社会で活動するには、日本独自の文化や歴史を青少年が認識し、それを世界に発信していく語学や弁論力も身に付けるべきである。	賛同	○地球規模の課題の深刻化を受け、6頁「横浜の教育が育む力」の「開」の解説には、横浜や日本の歴史や伝統文化を深く理解し、また、世界で起きている出来事にも幅広く関心を持ち、持続可能な社会の実現に向けて、身近なところから行動する力を育むことを示しています。頂いたご意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。
45	2 横浜の教育が育む力	・「持続可能な社会の実現に向けて、身近なところから行動する力」は、生きてはたらく知と連動し、大切だと思う。そのために、事実をしっかり見つめる学力が必要である。市民の運動、地域の活動とも連動しながら取り組む開かれたカリキュラムが必要である。	賛同	○横浜の教育が育む力における5つの視点「知」「徳」「体」「公」「開」については、相互に関連付けながらバランスよく育てていきます。また、「社会に開かれた教育課程」の実現については大変重要と考え、8頁「教育の方向性」の「2 魅力ある学校をつくります」の解説に示しています。頂いたご意見は、今後の参考にさせていただきます。

No.	項目	頂いたご意見（概要）	対応状況	ご意見に対する考え方
46	2 横浜の教育が育む力	・横浜市教育委員会は、「マナーキッズ体幹遊び教室」を実施し、「正しいお辞儀の形式」を学校現場に押し付けようとしている。教育委員会の姿勢は、「開」で謳っている多様性の尊重に反している。	参考	○頂いたご意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。
47	2 横浜の教育が育む力	・「共生する力」は大変大切だと思う。しかし、一番問題なのは、大人の問題である。「人権」的視点で教科内容をしっかり確認し、ぶれないようにしてほしい。	参考	○頂いたご意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。
48	2 横浜の教育が育む力	・「新たな価値を創造しようとする態度」はどのようにして育つかわからない。子どもが自由に行け、活用できる機関が必要である。学校の図書室、各区の図書館、地区センター、青少年センターなどが機能しているか。交通費の補助など考えてほしい。	参考	○「横浜教育ビジョン 2030」の実現に向け、具体的な取組については、「横浜市教育振興基本計画」及び「横浜市立学校カリキュラム・マネジメント要領」に示してまいります。頂いたご意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。
49	2 横浜の教育が育む力	・ビジョンの「開」については横浜市が国際都市として最も重視すべき点である。横浜というグローバル都市においては、国籍・文化の違いに関わらず互いを尊重する共生社会を尊ぶことが大事である。また、「公」についても、横浜の国際性・進取の気性を誇りに思う気持ちを育てることが重要である。一方で、横浜市では現在、共生社会・国際的多様性の理念に反し、国際的に厳しく批判され、また知的レベルの極めて低い育鵬社の教科書を歴史科・社会科教育に採用している。教育ビジョン 2030 に明確に反する教育を現在の生徒に行っていることを反省してほしい。誇り高い横浜市歌の理念はどこに行ってしまったのか。横浜市が行うべきは、国際協調の理念に反し、日本の世界的地位を低めている現在の中央の政治家に追随する事ではなく、日本一の国際都市として彼らを諫め、また、国際的な広い視野をもって今後の日本の教育のあるべき姿を先駆けて示すことである。林市長はじめ、教育委員会の方々においては、国際都市・横浜の誇りを持ち、現在の教育体制について深く反省し、国際的な広い視野・高い理念をもって教育に携わることを期待する。	参考	○頂いたご意見は今後の取組の参考にさせていただきます。

No.	項目	頂いたご意見（概要）	対応状況	ご意見に対する考え方
50	2 横浜の教育が育む力	・対話的な学びに向かうため、豊かな思いやりのある心を育むため、他者と協働するために「対話する力」が重要であり、「公」または「徳」に明記すべきである。	参考	○対話する力は大変重要と考え、6頁「横浜の教育が育む力」の「開」の解説で、「価値観や背景の異なる相手ともコミュニケーションを図ることを大切にします」と示しています。
51	2 横浜の教育が育む力	・横浜市の教育ビジョンは、「知」「徳」「体」に加えて、「公」「開」という横浜らしい視点があり、横浜がどのような教育を進めていくかわかりやすいメッセージとなっていると思う。	賛同	○頂いたご意見を踏まえながら、今後も教育施策を推進してまいります。
52	2 横浜の教育が育む力	・「横浜教育ビジョン 2030」素案について、「知」「徳」「体」「公」「開」の視点で大変よく練られていると思う。特に、「読書活動の推進や図書館サービスの充実、横浜の歴史に関する学習の場の充実を図る」という点において、横浜市では、林市長のもと、他都市に先駆けて学校司書の全校配置を行ったことが、素晴らしい取り組みと感じ評価している。単に本が並べてあった図書室に司書が配置されたことで、資料が活用される図書館となり、学校司書が重要な役割を担っている。これからの横浜市の未来に向けて、自ら学んだ豊かな子どもたちが、より豊かな社会を築いてゆくことを期待する。	賛同	○頂いたご意見を踏まえながら、今後も教育施策を推進してまいります。
53	2 横浜の教育が育む力	・「横浜教育ビジョン 2030」はいいことばかり書いてあるが、これをどれだけの先生方が参考にするのか。子どもの姿が全く浮かんでこない。横浜市の小中学生は、全国に比べて自己肯定感が低い、将来の夢や目標を持っている割合が低い等の課題があげられているが、これらは市教委の言う「徳」「体」「公」に大いなる問題ありということで、教育の根幹がいかに貧弱なものかを表している。解決への深い施策が全く見られない。根本的解決をはかる方向を見失っているから、原発いじめのような事態が起こったといえる。深く反省すべきである。多様な価値観や個性の尊重、多様性の尊重といった言葉がちりばめられているが、何一つ具体性がない。手立てとして、家庭や地域との連携をあげ、家庭にもっと頑張れと押し付けている気さえする。	参考	○各学校は、「横浜教育ビジョン 2030」を踏まえ、子どもの発達段階や、学校、地域の状況に応じ、学校教育目標を設定します。また、「横浜教育ビジョン 2030」の実現に向け、具体的な取組については、「横浜市教育振興基本計画」に示してまいります。頂いたご意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。

No.	項目	頂いたご意見（概要）	対応状況	ご意見に対する考え方
54	2 横浜の教育が育む力	<p>・何故教育が育む力の項目に「食育」が入っていないのか。心と体の健康の源は、食であり、どの様に食を摂っていくことが、体も心も健康に育っていくのか、どの様に生活に生かす力になるのかという自立力として大きな力を発揮するのが「食育」だ。又、生命の教育として直接つながっている教育でもある。健康に生きることがあってこそ未来につながる力が生まれることを考えると「食、体、知、徳、公、開」という項目順番と考えてもいいのではないかと思う位だ。是非、「食」を教育ビジョンの中に位置づけ「横浜の教育が目指す人づくり」としての足にしっかりつけて頂きたいと考える。</p> <p>生命を大切にす教育。体も心に健康に育つ教育として力よく生きる自立力ある横浜市民として育ててほしいと願っている。是非「食育」をビジョンにしっかり位置づけてほしい。</p>	参考	<p>○食の大切さについては、「横浜の教育が育む力」の「体」の中に位置づけ、5頁の解説に記載しています。頂いたご意見は今後の取組の参考にさせていただきます。</p>
55	2 横浜の教育が育む力	<p>・「今後 30 年以内に震度 6 以上の揺れに見舞われる確率」は 81%で全国で 2 番目に高くなっている状況をふまえ、自然災害・防災教育について、さらに踏み込んだ記載を希望する。また、防災教育は、自然災害を通して「いのちの大切さ」を学ぶことである。自分の命を自分で守ることができるようになって初めて、他者を理解し手助けをしたり、夢を思い描くことができるのだと思う。この部分が素案には抜けていると思う。</p>	参考	<p>○5頁「2 横浜の教育が育む力」の「徳」の解説に、自分をかけがえのない存在として大切にする心を育むことを示しています。「知」「徳」「体」「公」「開」の視点で表す力を相互に関連付けながらバランスよく育てていきます。頂いたご意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。</p>
56	2 横浜の教育が育む力	<p>・「健やかな体」について、足がない、体の一部をうまく動かせないなどの人も含んでいるのかわからない。公については、行政の改善点を見つける、といったことを記載してほしい。横浜の行政に問題点を感じさせない教育を目指している印象を受ける。異性愛、同性愛、性自認、DVなど性に関することを記載してほしい。</p>	参考	<p>○「横浜教育ビジョン 2030」は全ての学校種に通う全ての子どもを対象とし、横浜だけでなく、ともに未来を創る人を育てていきたいと考えます。課題を発見する力については、「知」の「自ら問題を発見し、よりよく解決する力」に包含しています。頂いたご意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。</p>
57	2 横浜の教育が育む力	<p>・公について、重要性は分からないがインパクトはある。育む力について、具体的にどのように育むのか分からない。</p>	参考	<p>○「横浜教育ビジョン 2030」の実現に向け、具体的な取組については、「横浜市教育振興基本計画」及び「横浜市立学校カリキュラム・マネジメント要領」に示してまいります。</p>

No.	項目	頂いたご意見（概要）	対応状況	ご意見に対する考え方
58	2 横浜の教育が育む力	・どのくらいできたのか、がよくわからない。学力状況調査（2017）の結果等、データが少ない。学力調査なら本計画が開始した 2006 年からのデータの推移を示してほしい。これらのデータは、市のホームページ上のどこにあるのかを示すでもいい。生データが見たい。	参考	○全国・学力学習状況調査は文部科学省が実施しており、結果はホームページで公表されています。 http://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenk-okugakuryoku.html
59	2 横浜の教育が育む力	・全国学力・学習状況調査の横浜市の平均点を教えてほしい。公表しない理由は何か。	参考	○全国・学力学習状況調査の横浜市の平均点は公表しております。
60	3 教育の方向性 1	・道徳教育、評価問題で点数をつけるのはやめてほしい。	参考	○道徳科の評価については、道徳性そのものが育っているのか評価するのではなく、多面的・多角的な見方へと広げているか、道徳的価値の理解を自分自身のかかわりの中で深めているかを文章によって評価し、数値による評価は行いません。
61	3 教育の方向性 1	・主体的な学びを進めるにあたって、現在の横浜市の弱いところは図書館の部分である。「主体的な学び」の解説に「学校図書館の活用・充実」の文言を追加してほしい。	参考	○学校図書館の活用・充実については、7頁「教育の方向性」の「1 子どもの可能性を広げます」の解説における「授業改善の推進」に含めて考えています。頂いたご意見は今後の取組の参考にさせていただきます。
62	3 教育の方向性 1	・「よりよい社会や新たな価値の創造に向け、学びを社会と関連付け、他者と協働する機会を創出します。」について、この活動を展開するにあたり、学校の教職員集団の中にそうした力量がどのくらい育っているのか。地域に出て教材を見つけ出す余裕と力量もない状況だと思う。学校が教育課程を作るために相当教育委員会が支援しないと創れないと思う。	参考	○授業改善に向け、「横浜市立学校カリキュラム・マネジメント要領」を活用し、各学校を支援していきます。頂いたご意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。
63	3 教育の方向性 1	・「教育の方向性」の1つ目に子どもの可能性を広げることが挙げられ、「主体的」という言葉が入っていることから、内容について賛同する。横浜教育ビジョンを実現してもらいたい。	賛同	○頂いたご意見を踏まえながら、今後も教育施策を推進してまいります。「横浜教育ビジョン 2030」の実現に向け、具体的な取組については、「横浜市教育振興基本計画」に示してまいります。
64	3 教育の方向性 1	・学校の図書室の蔵書が古く、少ない。一人あたりの貸出冊数も満足できない。	参考	○学校図書館の蔵書や貸出冊数については各学校の状況により異なります。頂いたご意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。

No.	項目	頂いたご意見（概要）	対応状況	ご意見に対する考え方
65	3 教育の方向性 1	・基礎的学力の量的多さが、子どもの主体的思考を奪っている。考える時間があまりにも足りない。学習活動を構造化して、わずかな課題に対し、たくさん考える時間の余裕を与えられるよう、市の研修会の在り方、指導主事の役割りを改善してほしい。主体的学力づくりは、基礎的学力づくりと車の両輪として取り組む必要がある。	参考	○7頁「教育の方向性」の「主体的な学び」の解説において、子ども自身が興味を持って積極的に学ぶことができるよう授業改善を推進するとしています。具体的な取組は、「横浜市教育振興基本計画」及び「横浜市立学校カリキュラム・マネジメント要領」に示します。
66	3 教育の方向性 1	・道徳教育は、初めから大人の価値観を押し付けるようになってきている。授業参観に行った保護者ですら、結論ありきの展開と言っている。学級集団の中から子どもたち自身が解決したい思いから課題を見つけさせないと本音を出して話し合うことが出せない。また、子どもたちと教職員との愛情あるつながりがないと心の問題を表現できない。また、児童指導に当たり、子どもの問題行動に対する取り組みでも、なぜ問題行動をとるようになったのか、真相をしっかりとつかみ、心にしみる指導が必要である。	参考	○子どもが問題意識をもって学習に臨み、ねらいとする道徳的価値を追求し、多様な考え方や感じ方によって学ぶことができるように、問題解決的な学習などの指導方法を工夫することが大切だと考えます。各学校で「考え、議論する道徳」を実践していけるよう、事務局としても支援していきます。また、教職員が子どもの理解を深めることは大変重要と考え、「3 横浜の教育の方向性」の「2 魅力ある学校をつくります」の「安心して学べる学校」に示しています。頂いたご意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。
67	3 教育の方向性 1	・小中一貫校を増やすのは大いに結構だが、義務教育学校の名称は、義務を押しつけるようなのでやめてほしい。制服も選べるようにしてほしい。多様な価値観というのであれば、狭い校則に縛るのは辞めてほしい。いろんな個性を認め、いろんな可能性を伸ばすことこそ、教育である。	参考	○義務教育学校という名称は学校教育法に定められた学校の種類です。横浜市では、「横浜市立義務教育学校霧が丘学園」、「横浜市立義務教育学校西金沢学園」という名称にしています。多様性の尊重は大変重要と考え、「教育の方向性」の冒頭に示しています。頂いたご意見は今後の取組の参考にさせていただきます。
68	3 教育の方向性 1	・「幼児期から社会的自立までの成長過程における学びや育ちの連続性を大切にします」について、学びの速い子はよいですが、ここに示される目標についてこられない子にも、しっかりと支える体制が欲しい。子どもたちの育ちを急かせることなく、ゆっくりと豊かに育ててほしい。意欲的に学び論理力が育つ10歳までに、外で群れて遊べる環境づくりは、学校教育の根本の見直しから考えてほしい。育ちの連続性を子どもたちの発達の問題の現実と向き合って対応してほしい。	参考	○「教育の方向性」の「1 子どもの可能性を広げます」では、様々な教育的ニーズに応じて、個性や能力を伸ばすとしています。頂いたご意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。

No.	項目	頂いたご意見（概要）	対応状況	ご意見に対する考え方
69	3 教育の方向性 1	・横浜教育ビジョンの中に特別支援教育の事が書かれている。障害児が差別化される事なく、教育が受けられる社会であってほしいと思う。	賛同	○頂いたご意見を踏まえながら、今後も教育施策を推進してまいります。
70	3 教育の方向性 1	・規模の小さい小中学部だけの特別支援学校を増設させるべきである。	参考	○頂いたご意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。
71	3 教育の方向性 1	・各区に1校以上、知・肢体併設の特別支援学校の設置をするべきである。	参考	○頂いたご意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。
72	3 教育の方向性 1	・高等部単独の特別支援学校を北部方面に設置するべきである。	参考	○頂いたご意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。
73	3 教育の方向性 1	・特別支援教育を必要とする児童生徒はどのように可能性を広げるのか。また、幼保小中高連携に特別支援学校を入れてほしい。	参考	○「横浜教育ビジョン2030」は全ての学校種を対象としています。また、幼保小中高連携については特別支援学校も含まれます。頂いたご意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。
74	3 教育の方向性 1	・各区に肢体不自由児の特別支援学校を設置すべきである。	参考	○頂いたご意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。
75	3 教育の方向性 1	・経済的理由により、芸術やスポーツ分野での進学をあきらめることがある。フランスのように国、地方レベルの財政で、義務教育と芸術やスポーツの両面が学べる学校の創設を望む。	参考	○頂いたご意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。
76	3 教育の方向性 1	・社会的問題となった教育委員会の対応を反省し、「原発事故避難生徒へのいじめ問題が二度と起こらないようにする為の取組み及び民族差別、障害のある生徒、貧困家庭の生徒等、全ての差別といじめをなくす取組の推進」と明記することを要望する。	参考	○いじめに対する取組は不可欠と考え、「教育の方向性」の「安心して学べる学校」に示しております。具体的な取組については、29年に改訂した「横浜市いじめ防止基本方針」等を踏まえ、「横浜市教育振興基本計画」に示してまいります。頂いたご意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。

No.	項目	頂いたご意見（概要）	対応状況	ご意見に対する考え方
77	3 教育の方向性 1	・これ以上教科を増やして、ただでさえブラックな勤務状況の横浜の先生を苦しめている気がする。英語、プログラミング、道徳を増やすなら、会議や研修などの必要ない仕事はざっくり減らさないとうつや過労で離職する先生が増えると思う。もっと子どもと向き合う時間を増やしてほしい。	参考	○教育課程については新学習指導要領に沿って対応をしております。教職員の担うべき業務の精選については大変重要と考え、8頁「教育の方向性」の「2 魅力ある学校をつくります」の解説に示しています。具体的な取組については、「横浜市立学校教職員の働き方改革プラン」に沿って進めてまいります。頂いたご意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。
78	3 教育の方向性 1	・「子どもの可能性を広げます」について、「子どもの可能性を引き出し、伸ばします」にしたい。入学して、すぐに挫折、パニックに陥っている子に出会うことがある。また、自分が分かることから諦めてしまう子もいた。子ども自身の中の発達の可能性を育てる余裕が必要。そんな教師の実践を励ましあえる学校集団を作してほしい。	参考	○「教育の方向性」の「1 子どもの可能性を広げます」では、様々な教育的ニーズに応じて、個性や能力を伸ばすとしています。頂いたご意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。
79	3 教育の方向性 1	・多様な価値観を認めることは良い。多様性を尊重することと、人に迷惑をかけてよいことは違うので、誤解されないようにすべきである。	賛同	○多様性の尊重とあわせて、「自分を律する態度と人を思いやる優しさ」が大変重要と考え、「横浜の教育が育む力」の「徳」に示しています。頂いたご意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。
80	3 教育の方向性 1	・小学校で個別支援級の支援員として関わっている人間として、考えることがある。教育方針の一つに「多様性を尊重し、～」というのがあるが、一般学級の児童と個別支援級の児童との交流をもっと持てたらいいのではないか。テレビで取り上げられていた飯島小学校の例は、支援級の児童にとっても、普通級の児童にとっても、プラスになることではないか。交流を通じて、お互いに認めることになるのではないか。	賛同	○子ども同士が個々の違いを認め合いながら、ともに学び育つことは大変重要と考え、7頁「教育の方向性」の「1 子どもの可能性を広げます」の解説にその旨を記載しています。頂いたご意見は今後の取組の参考にさせていただきます。

No.	項目	頂いたご意見（概要）	対応状況	ご意見に対する考え方
81	3 教育の方向性 1	・国際交流ラウンジ機能の拠点があることによって、外国につながる子どもたちへの学校以外の学びの場、保護者を含む大人には学習の場、地域に対しては交流の場となる。P 7に「多様性を尊重し、つながりを大切にした教育を推進します」とあるが、横浜市全区に国際交流ラウンジの機能が必要と考える。特に神奈川区は横浜市で4番目に外国人登録者数が多い区なので、早い時期に必要。いろいろな施設の空きスペースの利用なども考えられる。また、人権教育の充実に向け、いろいろな少数者に配慮するとの文章があると良い。	参考	○頂いたご意見は関係区局にも伝え、今後の取組の参考にさせていただきます。
82	3 教育の方向性 1	・中学ではクラスに2人は不登校になっており、大人数のクラスに入れないだけの子も多くいる。通えないだけで教育の機会が減ってしまうことは、日本や横浜にとって損失だと思う。個別支援学級以外に少人数のクラスを作ることにはできないのか。	参考	○子どもの教育的ニーズに応じて、多様な学びの場が用意されていることは大変重要と考え、7頁「1 子どもの可能性を広げます」の解説に示しています。頂いたご意見は今後の取組の参考にさせていただきます。
83	3 教育の方向性 1	・「多様性を尊重し、つながりを大切にした教育」は否定しないが、今日優先させるべき課題は、「自分を大切にし、自尊心が育つ個性豊かな教育」の推進ではないか。	参考	○自分を大切にすることは大変重要と考え、「横浜の教育が育む力」の「徳」で示しています。頂いたご意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。
84	3 教育の方向性 1	・人権問題を前提とした性教育を行ってほしい。	参考	○頂いたご意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。
85	3 教育の方向性 1	・小学生に外遊びができる、放課後遊びの時間を保証するために学校カリキュラムの見直しを進めるべきではないか。授業時間の弾力的運用ができるようにすべきである。特に低学年の子どもには、負担が大きすぎる。3年生からの英語学習も、幼児の親たちの中にまで子育て不安をあおっている。	参考	○授業時数は国の学習指導要領で定められており、平成32年度から全面実施の学習指導要領では、小学校3・4年生の外国語活動が新たに義務付けられます。 本市は既に国の基準より小学校の総時間は各学年20時間多く、小学校1年生から4年生はこれを外国語活動に割り当てています。 頂いたご意見は今後の取組の参考にさせていただきます。

No.	項目	頂いたご意見（概要）	対応状況	ご意見に対する考え方
86	3 教育の方向性 2	・先生たちの多忙化や長時間の働かせ方にメスを入れず、先生たちに資質、能力の向上、使命感や情熱を求めるだけの施策はますます現場を無気力にする。横浜の問題点は、先生たちが、真の意味で生き生きできていないことである。オール横浜で子どもを支えるなどと書かれているが、実態とかけ離れ過ぎていて、むなしただの言葉に聞こえる。平成25年から26年にかけて横浜市教委が行った「勤務実態調査」をいつもそばにおいて教職員の働き方を改善することが急務ではないか。これを指標にしていくべき。横浜教文センターの改修、または建設も急務である。	参考	○教職員の働き方改革については大変重要と考え、8頁「教育の方向性」の「2 魅力ある学校づくり」の解説に示しています。具体的な取組については、「横浜市立学校教職員の働き方改革プラン」に沿って進めてまいります。また、教育センターはこれからの横浜の教育を支える研究・研修拠点として、新たな施設の確保について検討を進めます。頂いたご意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。
87	3 教育の方向性 2	・育児に力を入れると市長は言っているが、教育の質を含め育児だと思う。もっと子どもたちが安心して通うことが出来る学校にしてほしい。インクルーシブ教育を期待する。	参考	○「教育の方向性」の「2 魅力ある学校づくり」で掲げた「安心して学べる学校」を目指し、取組を進めてまいります。また、7頁「1 子どもの可能性を広げます」の解説に示すように、学習や発達を取り巻く教育的ニーズに応じて、連続性のある多様な学びの場が用意されていることを重視していきます。
88	3 教育の方向性 2	・特別支援学校にスクールカウンセラーを配置してほしい。	参考	○特別支援学校においても、スクールカウンセラーの活用は大変重要と考えております。頂いたご意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。
89	3 教育の方向性 2	・教師に必要なのはハート。岡田教育長には、心がある教育はできない。いじめ110番や学校生活あんしんダイヤルの担当者が個によって質が違いすぎる。不登校生徒への働きかけを見直すべきである。	参考	○研修等を通じて相談員の人材育成に努めてまいります。頂いたご意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。
90	3 教育の方向性 2	・原発被害者いじめがあったのに、ビジョンには「いじめは許しません」とは書かれていない。あれがいじめ・恐喝で無いかもと言ってしまうトップがいる横浜市に不信感をもった。どうか、「悪いことは悪い」という横浜市であってほしい。	参考	○いじめに対する取組は不可欠と考え、「教育の方向性」の「安心して学べる学校」に示しております。具体的な取組については、29年に改訂した「横浜市いじめ防止基本方針」等を踏まえ、「横浜市教育振興基本計画」に示してまいります。頂いたご意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。

No.	項目	頂いたご意見（概要）	対応状況	ご意見に対する考え方
91	3 教育の方向性 2	<p>・一番やってほしいことはいじめの問題である。小中学校では人を傷つける言葉、無視などはよくあり、そのため学校に行けなくなる人がいるが、学校は大したことではないかのように扱い、いじめという言葉を使いたがらないように感じる。教師による生徒へのいじめも多くあるが、これはもったなかったことにされている。いじめの問題は、学校で対応するのではなく、人権や法律を正しく理解して本当に子どもに寄り添うことのできる専門の教師以外の人を入れて対応してほしい。また、学校に行かなくても学習することができ、成績も同じように評価される仕組みを作ること、加害者がいることで被害者が学校に行くことができないのであれば加害者を通学させないこと、加害者にやったことの罪の認識をさせる教育をとり入れてほしい。</p>	参考	<p>○いじめに対する取組は不可欠と考え、「教育の方向性」の「安心して学べる学校」に示しております。具体的な取組については、29年に改訂した「横浜市いじめ防止基本方針」等を踏まえ、「横浜市教育振興基本計画」に示してまいります。頂いたご意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。</p>
92	3 教育の方向性 2	<p>・「人権教育の充実」と「いじめのない風土づくり」を並列に置くのはいかがか。人権教育はこんな末端ではなく単独でトップに掲げてもらいたい。人権教育を徹底すれば自ずと差別もいじめもなくなる。そのプロセスを経て「いじめのない〇〇」を目指さなければ意味がない。</p>	参考	<p>○頂いたご意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。</p>
93	3 教育の方向性 2	<p>・不登校、引きこもりのまま青年期を迎えている若者たちの苦しみ、生育のどこに焦点を当てているのか。個人の責任だけにとどまらず、環境全体からとらえなおしてみるべきである。</p>	参考	<p>○8頁「教育の方向性」の「2 魅力ある学校をつくります」の解説において、子どもの思いをしっかりと受け止めることや、いじめや不登校など、複雑化・困難化する課題について触れています。また、9頁「教育の方向性」の「4 社会全体で子どもを育みます」の解説において、貧困や児童虐待など、様々な課題を抱える子ども一人ひとりに寄り添って支えることを示しています。頂いたご意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。</p>

No.	項目	頂いたご意見（概要）	対応状況	ご意見に対する考え方
94	3 教育の方向性 2	・「教職員が子どもの理解を深め、いじめなどの課題をチームで解決し、安心して学べる学校を作ります。」について、実効あるものにしてほしい。問題があっても、職員集団の英知を引き出すことがいまだにできていない学校がある。方面別担当指導主事は的確に学校学級の実情をつかんでいるのか？校長のリーダーシップが適切にできていないときに支援できていないようでは、スローガン倒れになる。校長のマネジメントや危機管理能力の弱さに閉口している。	参考	○8頁「教育の方向性」の「2. 魅力ある学校をつくりまします」の解説にあるよう、校長のマネジメント力や危機管理能力の向上を図っていきます。頂いたご意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。
95	3 教育の方向性 2	・「地域資源を活かしながら、「社会に聞かれた教育課程」を実現します。」について、「学校運営協議会」や「学校報告会」「PTAの活動」が形式的になっていないか。街おこし、地域おこし、のためにも学校が果たす役割が大きいと思う。学校が取り組めるようにするには、教育委員会がしっかりサポートすることができなくてはとても難しい課題である。地域の方との関わりは、総合学習の時間として大切にしたい。地域の教育力をどう引き出せるのか、教職員の負担を増やさずにやってほしい。	参考	○「教育の方向性」の中にあるよう、学びを社会と関連付けたり、地域や社会と目標を共有して、子どもと社会がつながる学校を目指していきます。教育委員会は、学校や子ども、地域の実態を踏まえた支援をしています。具体的な取組については、「横浜市教育振興基本計画」に示してまいります。頂いたご意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。
96	3 教育の方向性 2	・教員の働き方の見直しに賛成。一方で、部活をもっとやりたいと考える子どももいるので難しい問題である。	賛同	○教職員の働き方改革については大変重要と考え、8頁「教育の方向性」の「2 魅力ある学校づくり」の解説に示しています。具体的な取組については、「横浜市立学校教職員の働き方改革プラン」に沿って進めてまいります。頂いたご意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。
97	3 教育の方向性 2	・教員の多忙が教育の質の低下につながっている。教員が授業や指導の質を上げることに注力できるよう、事務部門の設置や業務分担などの環境整備をするべきである。	賛同	○教職員の多忙化の解消は大変重要と考え、8頁「教育の方向性」の「2 魅力ある学校づくり」の解説に示しています。具体的な取組については、「横浜市立学校教職員の働き方改革プラン」に沿って進めてまいります。頂いたご意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。

No.	項目	頂いたご意見（概要）	対応状況	ご意見に対する考え方
98	3 教育の方向性 2	・教員や生徒が安心して学べる生活ができるよう、教育委員会としてもしっかり取り組んでほしい。	参考	○「教育の方向性」に「安心して学べる学校」を掲げるとともに、8頁「2 魅力ある学校をつくります」の解説では、学校の業務改善支援や人材育成の充実等を記載していません。具体的な取組については、「横浜市教育振興基本計画」に示してまいります。頂いたご意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。
99	3 教育の方向性 2	・教員の残業について、トップダウンで業務量を減らすべく、教育委員会が仕事をすべきである。	参考	○教職員の担うべき業務の精選は大変重要と考え、8頁「教育の方向性」の「2 魅力ある学校づくり」の解説に示しています。具体的な取組については、「横浜市立学校教職員の働き方改革プラン」に沿って進めてまいります。頂いたご意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。
100	3 教育の方向性 2	・教員の負担軽減を実施し、子どもと向き合う時間を確保してほしい。30人学級も実現してほしい。	参考	○教職員が子どもと向き合う時間の確保は大変重要と考え、8頁「教育の方向性」の「2 魅力ある学校づくり」の解説に示しています。具体的な取組については、「横浜市立学校教職員の働き方改革プラン」に沿って進めてまいります。頂いたご意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。
101	3 教育の方向性 2	・教員採用試験を見直して欲しい。アイカレッジも人気がないのでやめてほしい。採用試験受験者には学力試験をすべきである。面接の採点が不透明。面接官を見直すべきである。無駄な研修、会議をやめて教師間の様々なハラスメントをなくす対策を行ってほしい。また、子どもが受けているハラスメントを親が訴え、確実に改善される場所をつくるべきである。教員に対し、不透明な評価はやめるべきである。特にいじめに関する評価はしないほしい。	参考	○よこはま教師塾「アイ・カレッジ」は、本市教員の人材育成指標に示されている「横浜市が求める着任時の姿」を目標に養成し、横浜市の教育に貢献することを目的として設置しています。今後も広報活動や大学等での説明会を充実させて受験者数増を促進し、より優秀な教員の確保につなげていきます。教員間のハラスメント対策については、引き続き、相談窓口の周知にあわせ、研修を通じてハラスメントの未然・再発防止の徹底の呼びかけを行います。頂いたご意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。

No.	項目	頂いたご意見（概要）	対応状況	ご意見に対する考え方
102	3 教育の方向性 2	・先生と生徒が学校に拘束されている時間を減らすことが重要である。中学校は部活動が盛んで、平日も土日祝日も休みなく毎日活動している。長期休みも同様。顧問の権力が大きいので、生徒が主体的に考え行動するという、目指しているものとは反対の方向へ行っているようだ。宿題も大量にあり、部活以外に興味ある趣味の時間や本や新聞を読んだりして学校以外の世界に目を向ける時間、ただ休息のための時間というものが削られていくばかりで多様性の尊重などはできないのではないかと。子どもだけでなく、誰でも興味あることに気軽に取り組めるような場所が、子どもの徒歩圏内にあるとよい。	参考	○教職員の働き方改革については大変重要と考え、8頁「教育の方向性」の「2 魅力ある学校づくり」の解説に示しています。具体的な取組については、「横浜市立学校教職員の働き方改革プラン」に沿って進めてまいります。また、部活動につきましては、平成30年度より、各学校で部活動休養日を設定していきます。頂いたご意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。
103	3 教育の方向性 2	・教員のブラック労働緩和と子どもたちへのきめ細かい教育のために、小学校での30人学級の達成を目標に入れてほしい。	参考	○教職員の働き方改革については大変重要と考え、8頁「教育の方向性」の「2 魅力ある学校づくり」の解説に示しています。頂いたご意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。
104	3 教育の方向性 2	・ブラック労働緩和と子どもたちの豊かな教育の一助として、小中学校の補助員の採用を積極的に行ってほしい。補助員は地元のシニアの中から選んでほしい。	参考	○教職員の働き方改革については大変重要と考え、8頁「教育の方向性」の「2 魅力ある学校づくり」の解説に示しています。頂いたご意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。
105	3 教育の方向性 2	・「教育を司る」のは現場の教員であり、教員は相当に疲弊している。そこに何ら手を打つことなく、彼らをさらに苦しめる「市民向けの空約束」をなぜ出せるのか。ただちにこのビジョンは撤回し、現場教職員の声を聞いて負担を軽減することから始めるべきである。	参考	○「横浜教育ビジョン2030」の検討にあたっては、学校現場の意見を聞きながら進めてまいりました。教職員の働き方改革については大変重要と考え、8頁「教育の方向性」の「2 魅力ある学校をつくります」の解説に示しています。具体的な取組については、「横浜市立学校教職員の働き方改革プラン」に沿って進めてまいります。頂いたご意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。

No.	項目	頂いたご意見（概要）	対応状況	ご意見に対する考え方
106	3 教育の方向性 2	・「子どもが豊かに学び育ち、教職員がいきいきと働くことができる学校をつくります。」について、すぐにやってほしい。時間外勤務をしなくてもよいようにしてほしい。トップダウン式になっている状態では、創造的教育活動は生まれないので、先生のランク付けもやめるべき。暴力行為、不登校件数は、1 クラス人数を減らし、先生たちが、一人ひとりの子に向き合える状況を作り出す中からでしか解決は生まれないと思う。	参考	○教職員の負担軽減や働き方改革については大変重要と考え、8頁「教育の方向性」の「2 魅力ある学校づくり」の解説に示しています。具体的な取組については、「横浜市立学校教職員の働き方改革プラン」に沿って進めてまいります。頂いたご意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。
107	3 教育の方向性 2	・教師力の向上は、結果が見える形にすべきである。	参考	○教職員の資質・能力の向上は大変重要と考え、8頁「教育の方向性」の「2 魅力ある学校づくり」の解説に示しています。頂いたご意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。
108	3 教育の方向性 2	・校長も、教職員も学校から出での研修が多すぎる。自分の担当している子どもの分析と、学習の準備に費やす時間と、共同研究の時間を保障してほしい。子どもに寄り添った民主的 school 運営になる環境を作ってほしい。	参考	○教職員の担うべき業務の精選については大変重要と考え、8頁「教育の方向性」の「2 魅力ある学校づくり」の解説に示しています。具体的な取組については、「横浜市立学校教職員の働き方改革プラン」に沿って進めてまいります。頂いたご意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。
109	3 教育の方向性 2	・「地域資源を活かした学校」のタイトルのもとに「社会に開かれた教育課程を実現する」というのは、「社会に開かれた教育課程」を狭義に解釈しているように見える。より良い社会をつくるという目標を社会と学校が共有することや求められる資質や能力を教育課程で明確化することも含めて、「社会に開かれた教育課程」という言葉を使うべきである。	反映	○頂いたご意見を踏まえ、「教育の方向性」の「2 魅力ある学校づくり」の左から2つ目を修正しました。

No.	項目	頂いたご意見（概要）	対応状況	ご意見に対する考え方
110	3 教育の方向性 2	・教員が意欲的に取り組む姿勢を強化することを打ち出すべきである。特に教員はいじめに対する認識をしっかりと持つべきである。また教員間で問題の共有を図り、教育委員会がいじめ問題に真剣に取り組むべきである。教育委員会、学校、地域が連携・協働することができる仕組みについて、学区ごとに取り組むことを指導していくことも明記してほしい。	賛同	○いじめに対する取組は不可欠と考え、「教育の方向性」の「安心して学べる学校」に示しています。具体的な取組については、29年に改訂した「横浜市いじめ防止基本方針」等を踏まえ、「横浜市教育振興基本計画」に示してまいります。頂いたご意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。
111	3 教育の方向性 2	・2「魅力ある学校をつくります」のうち、「いじめや不登校など…」とあるが、まずは教職員を対象とした「原発事故避難者の話を聞く場を設けます。」と明記すべきである。各クラスで先生と生徒が、この問題を一緒に考えて貰いたい。また、「子どもが豊かに学び、教職員がいきいきと働く事ができる学校をつくります」の中で、教職員の労働実態が過労死ラインである時間外労働月 80 時間にも達していることに何ら触れない事が信じられない。具体的改善策を明記すべきである。「教職員は自ら学び続け、資質、能力の向上…職務を果たします。」のうち「教育に対する使命感と情熱」は、学校における教職員の自主性が尊重されることが前提と思う。その為の1つの課題は、教科書の選定に教職員の声反映されるべきである。	参考	○いじめに対する取組は不可欠と考え、「教育の方向性」の「安心して学べる学校」に示しています。具体的な取組については、29年に改訂した「横浜市いじめ防止基本方針」等を踏まえ、「横浜市教育振興基本計画」に示してまいります。また、教職員の働き方改革についても大変重要と考え、8頁「教育の方向性」の「2 魅力ある学校づくり」の解説に示しており、具体的な取組については、「横浜市立学校教職員の働き方改革プラン」に沿って進めてまいります。頂いたご意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。
112	3 教育の方向性 2	・小学校教諭が学期の途中で休職するケースがある。先生方の過労が心配です。教員を増やしてほしい。国との絡みで難しいのであれば、市独自のシステムをつくり、補助職員を増やすことが必要である。	参考	○教職員が心身ともに健康でいきいきと働けることは大変重要と考え、8頁「教育の方向性」の「2 魅力ある学校づくり」の解説に示しています。頂いたご意見は今後の取組の参考にさせていただきます。
113	3 教育の方向性 2	・活躍している臨時的任用教員が正規採用に至らない場合がある。一方で不適格と思われる人材が採用されている。教員の採用方法を改善してほしい。	参考	○頂いたご意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。

No.	項目	頂いたご意見（概要）	対応状況	ご意見に対する考え方
114	3 教育の方向性 2	・特別支援学校において、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを活用できるような配置をすべきである。	参考	○特別支援学校においても、スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーの活用は大変重要と考えております。頂いたご意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。
115	3 教育の方向性 2	・相変わらず「いじめ」の問題が減少していないのが現実である。いじめられた側より、いじめをする側の原因究明に取り組んでないように思う。いじめや不登校の根底にある原因を取りのぞかなければ、永久にこの問題はなくならないように思う。原因は複雑で、すぐには解決できないと思うが、やはり乳幼児期に家庭の中で基本的な社会性を教える時間が減少している点にあると思う。女性の社会進出の増加や父親の長時間労働等により、親と子どもが「家庭」の中で向きあえる時間が減少している。子ども達の心の成長の基盤が確立する年令まで家族が子ども達を見守れるよう社会も動かなければ、この問題は解決されないと思う。	参考	○子どもは、保護者など特定の大人との関わりの中で、愛され、大切にされることで、基本的信頼感を育んでいくことが大変重要と考え、9頁「教育の方向性」の「4 社会全体で子どもを育みます」の解説に示しています。頂いたご意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。
116	3 教育の方向性 2	・「魅力ある学校をつくります」に記載されていることは、ほぼお経のようだ。精神論ではカリキュラムは成り立たない。	参考	○「横浜教育ビジョン2030」の実現に向け、具体的な取組については、「横浜市教育振興基本計画」に示してまいります。頂いたご意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。
117	3 教育の方向性 2	・教師が忙しすぎる。生徒の自主性を求めるなら、生徒を一人の人として尊重することが前提である。次の点を教育ビジョンに取り入れてほしい。(1)横浜市は前倒しで35人学級を進め、さらに30人学級へと移行していく計画を立ててほしい。(2)教師と各学校の裁量を増やし、教師の負担を減らす工夫をしてほしい。(3)生徒の人権を守り、自主性をはぐくむために「校則」を見直し、生徒の意見を反映させるしくみを導入してほしい。	参考	○教職員の働き方改革については大変重要と考え、8頁「教育の方向性」の「2 魅力ある学校づくり」の解説に示しています。頂いたご意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。

No.	項目	頂いたご意見（概要）	対応状況	ご意見に対する考え方
118	3 教育の方向性 2	・横浜サイエンスフロンティア附属中学校と南高校附属中学校は中等教育学校にして、負担軽減、中高生一体化強化、地域や外部と大学との連携強化、体験学習強化すればよい。また、部活の試合では、経費と手間の削減のために体操着のまま試合出場できるようにする。教員・生徒の負担軽減のため部活を外部移行し、横浜ビー・コルセアーズジュニアに中学校の試合出場資格を与え、学校部活と民間団体との比較などして試す。実現するために、コーチングや交渉力等を利用するべきである。	参考	○教職員の働き方改革については大変重要と考え、8頁「教育の方向性」の「2 魅力ある学校づくり」の解説に示しています。具体的な取組については、「横浜市立学校教職員の働き方改革プラン」に沿って進めてまいります。また、部活動につきましては、外部指導者の派遣や部活動指導員の配置を行います。頂いたご意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。
119	3 教育の方向性 2	・いじめ問題や不登校の問題を解決していくためにも、少人数学級の実現に力を注いでほしい。教員の多忙化を解決し、子どもに寄り添える教育をして欲しい。子どもが成長していける教育をしてほしい。教科書の選定は現場の先生の意見を尊重してほしい。	参考	○教職員の働き方改革は大変重要と考え、8頁「教育の方向性」の「2 魅力ある学校づくり」の解説に示しております。具体的な取組については、「横浜市立学校教職員の働き方改革プラン」に沿って進めてまいります。頂いたご意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。
120	3 教育の方向性 2	・いじめは仲間の中での問題である。仲間づくりがどうして学校の中で進まないのか、地域で子どもたちが住みやすくなっていないのはなぜなのか。社会全体の生きにくさと、子どもたちがそこから押しつぶされるように生きている。そのことが教室にも持ち込まれている。教員が子どもたち一人ひとりに向き合えない状況をどう打破するのか。1クラス人数をどう少なくするのか、喫緊の課題である。	参考	○いじめのない風土づくりは大変重要と考え、7頁「教育の方向性」の「1 子どもの可能性を広げます」の解説に示しています。教員が子どもとしっかり向き合う時間の確保は大変重要と考え、8頁「教育の方向性」の「2 魅力ある学校をつくります」の解説に記載しています。具体的な取組については、「横浜市立学校教職員の働き方改革プラン」に沿って進めてまいります。頂いたご意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。
121	3 教育の方向性 2	・「魅力ある学校を作ります」について、スローガン倒れにならず、保護者が仕事を休んでも授業参観や、懇談会に来たくなるような学校にしてほしい。	参考	○頂いたご意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。

No.	項目	頂いたご意見（概要）	対応状況	ご意見に対する考え方
122	3 教育の方向性 2	・部活動のあり方を見直し、地域や法人に委ね受益者負担で行われる仕組みにすべきである。中学校体育連盟は解散し、権限を委譲すべきである。部活動が教員の本来業務の負担になっている。「横浜教育ビジョン 2030」の中で具体的な方針やアイデアがないと説得力がない。	参考	○教職員の働き方改革については大変重要と考え、8頁「教育の方向性」の「2 魅力ある学校づくり」の解説に示しています。具体的な取組については、「横浜市立学校教職員の働き方改革プラン」に沿って進めてまいります。頂いたご意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。
123	3 教育の方向性 2	・特別支援学校の建替え基準を明確に示してほしい。	参考	○特別支援学校の建替えについては、各学校がそれぞれ独自の教育内容であったり、個々の学校のつくりが全く違うため、「横浜市立小・中学校施設の建替えに関する基本方針」（平成29年5月策定）では原則として対象とせず、別途方針を策定いたします。
124	3 教育の方向性 2	・目指す人づくりや教育の方向性に「つながり」という言葉が使われており、つながりに必要な方法論は多角的に提示されているが、子どもたちのつながりをどのように育てるのか読み解けなかった。	反映	○頂いたご意見を踏まえ、「教育の方向性」の「2 魅力ある学校づくり」の2つ目を修正いたしました。具体的な取組については、「横浜市教育振興基本計画」策定にあたり、検討してまいります。
125	3 教育の方向性 2	・性犯罪を起こした教員は二度と生徒と接触させないでほしい。	参考	○頂いたご意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。
126	3 教育の方向性 2	・道徳が教科となっても学校現場において、教員が多様性を認める教育ができるように教育委員会はサポートすべきである。	参考	○教職員が多様性を認める教育は大変重要と考え、「教育の方向性」の冒頭に「多様性を尊重し、つながりを大切にした教育を推進します」と示しています。子どもが問題意識をもって学習に臨み、ねらいとする道徳的価値を追求し、多様な考え方や感じ方によって学ぶことができるように、問題解決的な学習などの指導方法を工夫することが大切だと考えます。各学校で「考え、議論する道徳」を実践していけるよう、事務局としても支援していきます。頂いたご意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。

No.	項目	頂いたご意見（概要）	対応状況	ご意見に対する考え方
127	3 教育の方向性 2	・不登校児童の取組も、対処療法的には解決しないのではないかと。中学で不登校生徒が急増するのは、小中ギャップだけではないと思う。一番大きいのは、同じ釜の飯をゆっくり味わって食べる場がないことではないかと。安全安心の給食がない。	参考	○市の中学校昼食につきましては、早期に全校で実施ができることや、施設整備費が大幅に抑えられること、中学校の日課への影響を最小限に抑えられることなどを検討した結果、ライフスタイルや日々の都合に合わせてハマ弁、家庭弁当、業者弁当を選択できる仕組として実施しています。頂いたご意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。
128	3 教育の方向性 2	・良き市民の見本が市職員である。「やってみせ、やらせて見せ、ほめてやらねば人は育たぬ」という考えのもと教育をする決意は、どこを読めば理解できるか。	参考	○教職員が自ら学び続け、使命感や情熱を持って職責を果たすことは大変重要と考え、「教育の方向性」の「2 魅力ある学校をつくります」に示しています。なお、横浜市職員に求められる職員像及び人材育成については、「横浜市人材育成ビジョン」に示しています。
129	3 教育の方向性 2	・学校創立周年行事が気持ち悪い。税金を有効に使ってほしい。行事を見直し、練習を削減すること。強制でやっても生徒は楽しくない。	参考	○各校の創立周年行事の開催については、学校とPTA、地域が協力し、検討しています。頂いたご意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。
130	3 教育の方向性 3	・魅力ある学校になるためには教職員がいきいきと働ける環境が必要である。横浜市の小学校1年生から6年生の年間授業数が国平均より 20 時間多い状況を改善することが喫緊の課題である。	参考	○教職員がいきいきと働ける環境については大変重要と考え、8頁「教育の方向性」の「2 魅力ある学校づくり」の解説に示しています。頂いたご意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。
131	3 教育の方向性 3	・学校の校舎を 70 年使用することは安全ではない。	参考	○横浜市の公共施設の目標耐用年数は「公共施設の長寿命化 - 基本方針 -」により、原則として 70 年以上としています。「横浜市立学校の建替えの基本方針」においても、学校施設の目標耐用年数を 70 年としています。定期的に保全等を行い、安全を確保していきます。
132	3 教育の方向性 3	・「開かれた学校、カリキュラム編成」を推進するためには、学校の施設内だけを充実させるのではなく、学校周辺の地域に対しても環境整備が必要である。	賛同	○頂いたご意見を踏まえながら、今後も教育施策を推進してまいります。

No.	項目	頂いたご意見（概要）	対応状況	ご意見に対する考え方
133	3 教育の方向性 3	・「地域とともに子どもをよりよく育む教育環境を整えます。」について、のびのび遊べる公園が少ない中で、安心して遊べるのが学校の施設である。個人で自由に遊べる開放の仕方を考えてほしい。学校施設は、地域で一番の防災拠点である。災害時にあっても対応できるようにするには、地域の人がいずれも利用できるスペースが必要である。現在の地区センター、サポートセンターなど、配置を工夫しながら、また学童保育の施設としても、防災拠点の機能が複合的に活用できるようにしてほしい。	参考	○地域の防災や生涯学習に関しても学校の役割は重要と考え、9頁「教育の方向性」の「3 豊かな教育環境を整えます」の解説に記載しています。頂いたご意見は今後の取組の参考とさせていただきます。
134	3 教育の方向性 3	・横浜市では5年前から学校司書の専任配置を実現し、その効果が実証されている。「3横浜の教育の方向性」の「(3) 豊かな教育環境を整えます」に「読書活動の推進や図書館サービスの充実」と述べられているだけであるが、学校教育ばかりでなく社会教育（生涯学習）の充実・活性化を図るために、学校図書館および公立図書館の発展・強化の方向性を明確に示してほしい。	賛同	○ご指摘の通り、本市では学校司書を配置することで児童の図書室での貸出冊数が増加するなどの効果が出ています。生涯学習については大変重要と考え、9頁「教育の方向性」の「3 豊かな環境を整えます」の解説に示しています。具体的な取組については、「横浜市教育振興基本計画」策定にあたり、検討してまいります。頂いたご意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。
135	3 教育の方向性 3	・学校図書館の活性化①学校司書の全校配置（横浜市は完了、全国で小中約60%完了）②司書教諭の専任化③読書指導と図書館活用ができる教員の養成④新聞の配置（小学校 17%、中学校 15%） 予算の問題および図書室に対する学校の意識、位置づけに問題があるように思われる。公共図書館の学校図書館支援についても、それほど活発には動いていないように思われる。大学が学校教育を支援できる試みとして、大学と児童クラブの連携による放課後の読み聞かせと、ネットにおける図書館の広報に取り組んだ。「横浜教育ビジョン2030」について、教育の実例として伝えたい。	賛同	○教育の充実に向け、大学等、関係機関との連携については大変重要と考え、9頁「教育の方向性」の「4 社会全体で子どもを育みます」の解説に示しています。頂いたご意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。

No.	項目	頂いたご意見（概要）	対応状況	ご意見に対する考え方
136	3 教育の方向性 3	・学校図書館についてほとんど触れられていなくて残念である。学校図書館は本の冊数が少なく、修理の本の山になっている。本当に現場に必要な環境整備を最低限でも整えること、本の修理については時間が取れていない。ビジョンにも実績と現状、課題を汲んだ内容で学校図書館の充実・子どもたちの読書環境の向上につなげる文言を入れてほしい。	参考	○具体的な取組については、「横浜市教育振興基本計画」策定にあたり、検討してまいります。頂いたご意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。
137	3 教育の方向性 3	・教育環境の充実には、まず図書館から取り組んでほしい。学校図書館など重要な学校施設、費用のかかる備品を学校予算に任せずに、提供するようにしてほしい。公共図書館も少なすぎる。最大の政令指定都市にして、1区に1か所しか公共図書館がないこと。小学校の図書館の蔵書の貧相なこと。公共図書館の蔵書の貧相なこと。豊かな教育環境とはほど遠い。学校司書が配置されて、貸し出し冊数などは増えているそうだが、学校図書館のネットワークなどまだまだ環境が整っていない。	参考	○具体的な取組については、「横浜市教育振興基本計画」策定にあたり、検討してまいります。頂いたご意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。
138	3 教育の方向性 3	・3 横浜の教育の方向性の、「3 豊かな教育環境を整えます」において、「読書活動の推進や図書館サービスの充実」とあるが、学校図書館の充実・活性化についても言及して欲しい。また、感性豊かな心を育み、新しい感情に出会う。学校図書館がより充実することにより、ワンアクションでそれらへつなげることが可能になることは、子ども達にはとても重要な要素であると感じる。学校、地域、行政、公共図書館などと連携し学校図書館を充実させていくことは、重要な課題であると考えている。「横浜教育ビジョン 2030」で目指す新しい時代への人づくりには学校教育に加え、学校図書館の充実・活性化が不可欠であるのではないかと。	参考	○具体的な取組については、「横浜市教育振興基本計画」策定にあたり、検討してまいります。頂いたご意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。

No.	項目	頂いたご意見（概要）	対応状況	ご意見に対する考え方
139	3 教育の方向性 3	・読書ボランティアをして、図書室の本の少なさ、古さが気になった。幼小でしっかり読書体験が出来ることが基本である。じっくり読書をすることや本に出会うことこそ豊かな教育につながるのではないかと。予算が少ないのではないかと。	参考	○頂いたご意見は今後の取組の参考にさせていただきます。
140	3 教育の方向性 3	・大都市横浜にとって、市民の学びの環境は、貧しく、身近にない。残されたわずかな自然をなくすことなく、増やすことに努めてほしい。学校施設に併設して興味溢れる活動を提供してほしい。子どもが安全に徒歩や自転車でいけるよう、歩道の整備、自転車路の整備を計画的に実行してほしい。	参考	○頂いたご意見を関連する局と共有し、今後の取組の参考にさせていただきます。
141	3 教育の方向性 3	・地域の人材等を学校支援員として、登校時の支援だけでなく、学校行事や教科などにも協力してもらったら良いのではないかと。	賛同	○より多くの地域の方や保護者に学校運営に参画していただくことが大変重要と考え、9頁「教育の方向性」の「4 社会全体で子どもを育みます」の解説に示しています。頂いたご意見は今後の取組の参考にさせていただきます。
142	3 教育の方向性 3	・「豊かな教育環境を整えます」のところだが、学校施設の計画的な建替えや保全はもちろん大切なことだが、「通学路の安全確保」についても、その責任を行政がしっかりと負うことを、ビジョンに入れてほしい。住宅地等の開発などでは、開発事業者は、道幅ギリギリまで建物を建てようとするため、見通しが悪くなり、歩行スペースも狭まり、児童が安全に通学することができない箇所を多く見かける。教育委員会に通学路を所管する部署がないことも聞いている。ビジョンの安全な教育環境に「通学路」を含めることによって、責任が明確になり、よりよい施策が進められると考える。	参考	○通学路の安全確保については、9頁「教育の方向性」の「4 社会全体で子どもを育みます」の解説に、登下校時の安全確保等に向け、市長部局や関係機関等との連携を強化することを記載しています。頂いたご意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。

No.	項目	頂いたご意見（概要）	対応状況	ご意見に対する考え方
143	3 教育の方向性 3	・特別支援学校の建替えの基本方針を作成すべきである。	参考	○特別支援学校の建替えについては、各学校がそれぞれ独自の教育内容であったり、個々の学校のつくりが全く違うため、「横浜市立小・中学校施設の建替えに関する基本方針」（平成29年5月策定）では原則として対象とせず、別途方針を策定いたします。
144	3 教育の方向性 3	・「学校施設の建替や保全等を進め、子どもの安全・安心を確保します」とあるが、特別支援学校が対象に含まれていないと感じる。建替えに関する基本方針に特別支援学校も入れるべきである。	参考	○「横浜教育ビジョン2030」は全ての学校種を対象としています。特別支援学校の建替えについては、各学校がそれぞれ独自の教育内容であったり、個々の学校のつくりが全く違うため、「横浜市立小・中学校施設の建替えに関する基本方針」（平成29年5月策定）では原則として対象とせず、別途方針を策定いたします。
145	3 教育の方向性 3	・建替えの基本方針に特別支援学校の内容も入れてほしい。	参考	○特別支援学校の建替えについては、各学校がそれぞれ独自の教育内容であったり、個々の学校のつくりが全く違うため、「横浜市立小・中学校施設の建替えに関する基本方針」（平成29年5月策定）では原則として対象とせず、別途方針を策定いたします。
146	3 教育の方向性 3	・3「豊かな教育環境を整えます」とあるが、教育委員会から市長に、「新庁舎もいいけど、カジノなんか止めて、教文センターを作って下さい」と頼んでほしい。	参考	○教育センターはこれからの横浜の教育を支える研究・研修拠点として、新たな施設の確保について検討を進めます。頂いたご意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。
147	3 教育の方向性 3	・3) 横浜の方向性 (3) 豊かな教育環境を整えますの学校施設の建替えに関して、建替えを機に、中学校に学生食堂を作ってほしい。生徒も先生も昼食を自由に選べる環境を整備してほしい。そして、土曜日や長期休みは地域に開放し、長期休み中に給食がなくて痩せてしまう子や独居のお年寄りも利用できる、福祉の役割を担う複合施設を提案する。また、災害時にも何らかの食事の提供する機能を備えることで、地域防災拠点としての役割を強化することができる。	参考	○頂いたご意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。

No.	項目	頂いたご意見（概要）	対応状況	ご意見に対する考え方
148	3 教育の方向性 3	・「3 豊かな教育環境を整えます」の内容は、北綱島特別支援学校に関しては全く当てはまらない。分校にする意味がわからない。この問題を白紙に戻してほしい。	参考	○頂いたご意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。
149	3 教育の方向性 3	・「豊かな教育環境を整えます。」について、学校施設の建て替えや部分改修に当たり、設計の段階で、子どもたちの要求や教職員の要求を聞き建設に望んでほしい。障害のある子どもたち自身が、地域の中で受け入れられ、主体的に活動するには、特別支援学校が大規模な現状を改め、各区、各地域に配置され、共に育ちあい、生活できるようにする必要がある。適切に配置してほしい。	参考	○頂いたご意見は今後の取組の参考にさせていただきます。
150	3 教育の方向性 3	・何をやらないか、がよくわからない。「あれもこれも」でよいと思うが、子どもの数が減少した学校は統合し残さない等。	参考	○今後も、「横浜市立小・中学校の通学区域制度及び学校規模に関する基本方針」に基づき、学校規模の適正化に努めていきます。頂いたご意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。

No.	項目	頂いたご意見（概要）	対応状況	ご意見に対する考え方
151	3 教育の方向性 4	<p>・図書館サービスの充実と読書活動の推進は「生涯にわたって主体的に学び、心豊かな生活につながるよう、市民の学びの環境を整えます」という項目の中に掲げられているが、生涯にわたって、図書館サービスを上手につかって学び続けるには、学校教育において図書館を使って学ぶ方法を習得しなければ身に付かない。多様な情報から自分の考えを作っていくためにも、考える授業が求められており、またすべての学校教育の根幹に読書活動は関わっている。小学校の図書予算が少ないこと、学校司書の待遇がよくないので定着率がよくないこと、子どもたちの授業日すべてに学校司書が勤務するだけの予算がついていないこと、図書館と学校間や学校間どうしの資料を相互貸借する物流システムが整っていないことなど、その機能を発揮するにはまだまだ課題が多い。ぜひともこの部分は新しいビジョンに明記して整備して欲しい。そのことで、横浜がめざす教育に大いに貢献すると考える。また、ICT、情報教育を学校図書館と別にするのではなく、互いに連携させる方向が必要である。学校司書や理科支援員という専門スタッフに優秀な人材を確保するためにも、ある程度十分な予算確保は必要。</p>	参考	○頂いたご意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。
152	3 教育の方向性 4	<p>・公共図書館を1区1館にとどめることなく、数を増やして欲しい。それが難しいなら、地区センターとのネットワークをデータ公開だけでなく、物流も構築して、分館のようにして欲しい。まったく、その方向に進む気配がないので、その方向性に向かって検討を始めるところからでも始めて行って欲しい。「図書館サービスの充実」という文言にその意味が込められているならうれしく思う。</p>	参考	○頂いたご意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。

No.	項目	頂いたご意見（概要）	対応状況	ご意見に対する考え方
153	3 教育の方向性 4	・「行政は家庭教育を支援します。」とあるが、どうやって支援するのか？子どもの貧困やひとり親家庭の貧困、見えているのか。保護者まかせにせず、行政が支援する具体的な案を書くべきである。	参考	○9頁「教育の方向性」の「4 社会全体で子どもを育みます」の解説に、家庭教育の支援は、保護者への学習の機会及び情報の提供、保護者どうしのつながりや地域との交流を促進すること、貧困や児童虐待など、様々な課題を抱える子ども一人ひとりに寄り添って支えることを示しています。具体的な取組については、「横浜市教育振興基本計画」策定にあたって、検討してまいります。
154	3 教育の方向性 4	・地域に対して、何でも地域にやらせないでほしい。地域コーディネーターや地域懇談会等もいらない。PTAはなり手がいない。強制をやめさせるべきである。	参考	○PTAは任意の活動です。頂いたご意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。
155	3 教育の方向性 4	・通学路の安全を、車の問題ではなく子どもたちのマナーの問題にしていることはいかがなものか。	参考	○登下校時の安全確保等に向け、市長部局や関係機関等との連携強化は大変重要と考え、9頁「教育の方向性」の「4 社会全体で子どもを育みます」の解説に示しています。頂いたご意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。
156	3 教育の方向性 4	・通学路の安全を、車の問題ではなく子どもたちのマナーの問題にしていることはいかがなものか。	参考	○登下校時の安全確保等に向け、市長部局や関係機関等との連携強化は大変重要と考え、9頁「教育の方向性」の「4 社会全体で子どもを育みます」の解説に示しています。頂いたご意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。
157	3 教育の方向性 4	・健やかな体を育むためには、「子どもの貧困対策法」の趣旨を踏まえ、早急に中学校給食を実施すべきである。	参考	○市の中学校昼食につきましては、早期に全校で実施ができることや、施設整備費が大幅に抑えられること、中学校の日課への影響を最小限に抑えられることなどを検討した結果、ライフスタイルや日々の都合に合わせてハマ弁、家庭弁当、業者弁当を選択できる仕組として実施しています。また、生活環境により昼食の用意が困難な生徒に対し、ハマ弁を無償提供する支援を実施しています。頂いたご意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。

No.	項目	頂いたご意見（概要）	対応状況	ご意見に対する考え方
158	3 教育の方向性 4	・市立図書館が1区1館では、他の自治体に比べてあまりにもお粗末である。人口や面積を勘案し、現在の1区1館体制の見直しをお願いしたい。	参考	○頂いたご意見は今後の取組の参考にさせていただきます。
159	3 教育の方向性 4	・学校、家庭、地域等との連携・協働の機能強化が重要である。また、地域に協力してほしいことを教員から発信することを明記すべきである。	反映	○頂いたご意見を踏まえ、「教育の方向性」の「2 魅力ある学校づくり」の左から2つ目、及び「3 豊かな教育環境を整えます」の左から2つ目を修正いたしました。具体的な取組については、「横浜市教育振興基本計画」に示してまいります。
160	3 教育の方向性 4	・私ども地域の人々の活用を強化すべきである。また、地域に対しても学校との連携強化を指導することを明記してほしい。	反映	○頂いたご意見を踏まえ、「教育の方向性」の「2 魅力ある学校づくり」の左から2つ目、及び「3 豊かな教育環境を整えます」の左から2つ目を修正いたしました。具体的な取組については、「横浜市教育振興基本計画」に示してまいります。
161	3 教育の方向性 4	・世界中の学校で世界中の子どもたちが学んでいる。また、世界中で教育研究が進められている。ぜひ世界中のさまざまな人・場所・コトとつながって学校教育を、また教育研究を進めてほしい。横浜なんだから、大きく、ひろがりのあることをぜひ。	反映	○頂いたご意見を踏まえ、「教育の方向性」の「4 オール横浜で子どもを支えます」を「社会全体で子どもを育みます」と修正し、2つ目の「多様な主体との連携・協働」の内容も修正いたしました。
162	3 教育の方向性 4	・オール横浜を実現するための予算を、教育だけでなく、関係機関と実現できるように連携し、確保してほしい。	賛同	○教育の推進にあたり、関係機関との連携は大変重要と考えております。頂いたご意見を踏まえながら、今後も教育施策を推進してまいります。
163	3 教育の方向性 4	・読解力の向上として、学校図書館との連携、地域図書館との連携を検討してはどうか。	参考	○図書館を含む、様々な関係機関との連携は教育の充実に大変重要と考え、9頁「教育の方向性」の「4 社会全体で子どもを育みます」の解説に示しています。頂いたご意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。
164	3 教育の方向性 4	・オール横浜という表現は反日思想の押しつけであり反対である。	参考	○「オール横浜」は家庭、地域、関係機関、企業等が連携・協働して子どもを支えていくことを表したものです。なお、今後の教育施策を推進していくうえで、市内の関係機関や企業だけでなく、市外や国外の多様な主体との連携が重要と考え、表現を修正いたしました。

No.	項目	頂いたご意見（概要）	対応状況	ご意見に対する考え方
165	3 教育の方向性 4	・特別支援学校において、医療職等が安定して配置されるよう病院と連携した配置派遣システムを制度設計すべきである。	参考	○頂いたご意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。
166	3 教育の方向性 4	・「4.オール横浜で子どもを支えます」ですがオール横浜を標榜するのであれば、市として肢体不自由特別支援学校を5校体制に拘ることなく学校を追加してほしい。北綱島特別支援学校を閉校すると、川崎市の中原養護学校が通学先になる子どもがいる。県の設置義務を理由に市外への長距離通学を必要とする再編整備計画を強行するのであれば、オール横浜は取り下げてほしい。	参考	○頂いたご意見は今後の取組の参考にさせていただきます。
167	3 教育の方向性 4	・医療的ケアが必要な子どもが一般学級に通えるよう、学校と訪問看護ステーションとの連携など、横浜独自のやり方が確立できたらよい。施設面でのハードルがなくなれば、肢体不自由児が一般学級に通える可能性が高くなり、それにより特別支援学校の過密も解消される。特別支援学校と一般校の児童生徒が交流が進むよう、教員の障害に対する理解を深めることが重要である。	参考	○多様な教育的ニーズに応じた教育の推進は大変重要と考え、7頁「教育の方向性」の「1 子どもの可能性を広げます」の解説に示しています。頂いたご意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。
168	3 教育の方向性 4	・通学路の安全を、車の問題ではなく子どもたちのマナーの問題にしていることはいかがなものか。	参考	○登下校時の安全確保等に向け、市長部局や関係機関等との連携強化は大変重要と考え、9頁「教育の方向性」の「4 社会全体で子どもを育みます」の解説に示しています。頂いたご意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。
169	3 教育の方向性 4	・横浜市において、少しでも早く高等教育と医療費（乳幼児期～高等教育期）の無償化を望む。	参考	○小児医療費の助成については、現在小学6年生までを対象としておりますが、平成31年度より中学3年生までへと拡大する予定です。頂いたご意見は関係局と共有し、今後の取組の参考にさせていただきます。

No.	項目	頂いたご意見（概要）	対応状況	ご意見に対する考え方
170	3 教育の方向性 4	・家庭に対する支援は良いですが、家庭の中まで介入にならない自由さと、肩身の狭い思いをしなくてもよい方法で対応してほしい。社会福祉事務所との連携、保健所、児相、医療センター、民間の不登校グループなどとの連携など、役所自身も枠を超えた対応が、貧困家庭の子どもの生活・教育、不登校の子ども、引きこもりの青年を見逃さすことがなく、支える幅が広がると思う。しかし、まだまだ学校（校長）が壁を作って聞き取る力が弱い。	参考	○家庭教育の支援は、各家庭の自主性を尊重して行うことを、9頁「教育の方向性」の「4 社会全体で子どもを育みます」の解説に示しています。また、学校だけでは解決が困難な課題においては、学校と区役所、児童相談所、地域療育センター等が連携し、子どもを支えていきます。頂いたご意見は今後の取組の参考にさせていただきます。
171	3 教育の方向性 4	・横浜教育ビジョン 2030 の中で関係機関とは何を示しているのか。風土づくりという表現は時代にそぐわないのではないかと。具体的な環境づくりとしてユニバーサルデザインが必要。教育委員会も子どもの理解を深めるべきである。また、教科書採択の方法が不透明。さらに教員に不断の努力を求めているが、教員の負担問題等は教員の努力の問題にすべきではない。	参考	○関係機関とは大学等の教育機関、警察、医療機関や福祉施設等を想定しています。「横浜教育ビジョン 2030」の実現に向けて、具体的な取組については「教育振興基本計画」に示してまいります。頂いたご意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。
172	3 教育の方向性 4	・横浜教育ビジョン 2030 の中で関係機関とは何を示しているのか。風土づくりという表現は時代にそぐわないのではないかと。具体的な環境づくりとしてユニバーサルデザインが必要。教育委員会も子どもの理解を深めるべきである。また、教科書採択の方法が不透明。さらに教員に不断の努力を求めているが、教員の負担問題等は教員の努力の問題にすべきではない。文化財の保護、保全の実行。教文センターを返してほしい。市民が身近な課題に気づき解決に向けて主体的に行動していけるよう活動と学びの循環を支援しますとあるが、課題は行政が対応してほしい。家庭教育支援は具体的に何をやるのか。とにかく具体的な内容を示してほしい。それができないのであれば次長、部長、課長、係長は辞任する覚悟でやってほしい。	参考	○関係機関とは大学等の教育機関、警察、医療機関や福祉施設等を想定しています。「横浜教育ビジョン 2030」の実現に向けて、具体的な取組については「教育振興基本計画」に示してまいります。教育センターはこれからの横浜の教育を支える研究・研修拠点として、新たな施設の確保について検討を進めます。頂いたご意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。

No.	項目	頂いたご意見（概要）	対応状況	ご意見に対する考え方
173	3 教育の方向性 4	・横浜教育ビジョン 2030 の中で関係機関とは何を示しているのか。風土づくりという表現は時代にそぐわないのではないかと。具体的な環境づくりとしてユニバーサルデザインが必要。教育委員会も子どもの理解を深めるべきである。また、教科書採択の方法が不透明。さらに教員に不断的努力を求めているが、教員の負担問題等は教員の努力の問題にすべきではない。文化財の保護、保全の実行。教文センターを返してほしい。市民が身近な課題に気づき解決に向けて主体的に行動していけるよう活動と学びの循環を支援しますとあるが、課題は行政が対応してほしい。家庭教育支援は具体的に何をやるのか。	参考	○関係機関とは大学等の教育機関、警察、医療機関や福祉施設等を想定しています。「横浜教育ビジョン 2030」の実現に向けて、具体的な取組については、「横浜市教育振興基本計画」に示してまいります。家庭教育の支援は、保護者への学習の機会及び情報の提供、保護者どうしのつながりや地域との交流を促進することなどを想定しています。教育センターはこれからの横浜の教育を支える研究・研修拠点として、新たな施設の確保について検討を進めます。頂いたご意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。
174	3 教育の方向性 4	・保護者に対して求めることが多すぎる。教員は、教師としての力のなさを生徒や保護者のせいにしてしている。	参考	○頂いたご意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。
175	横浜教育ビジョン 2030 について	・有識者からの助言を受けたとのことだが、偏りがなかったのか気になる。このビジョンが教育現場に共有されれば、現場の労働環境がさらに悪化するのではないかと危惧する。経済・社会・環境などをめぐる事態の深刻化への対応は、多くの人々が関心を持って民主主義の手法で解決するしかない。日本は海外先進諸国に比べて特段に深刻な政治・経済・財政・社会・環境への分野の持続不可能に近いと危惧される状況がある。人類には経験や歴史から学ぶ知性や知恵によって社会の進化があった。憲法に基づいた民主主義の手法で民主主義の実現のためにより多くの人が参加し続けることが最も重要である。教育の役割は社会生活に必要な知識や体力の育成と社会の多方面に関心を持って持続的・共生民主主義の実現に資するものである必要がある。戦後長い間、公教育は全く逆の教育であったと思う。歴史から学ばないと同じ過ちを繰り返すことになる危機である。以上のような内容をビジョンの問題意識に加えてほしい。	参考	○「横浜教育ビジョン 2030」の検討においては、横浜の子どもを育む「知」「徳」「体」「公」「開」や教育内容、学校の組織力向上、家庭・地域・関係機関連携という視点を重視し、各分野でご活躍されている方や横浜の教育に関わりのある方を有識者として選定しました。頂いたご意見は今後の取組の参考にさせていただきます。

No.	項目	頂いたご意見（概要）	対応状況	ご意見に対する考え方
176	横浜教育ビジョン2030の推進	・市長部局の諸ビジョンと、どのように内容をすり合わせているのか。	参考	○「横浜教育ビジョン2030」の検討にあたっては、市長部局職員からも幅広く意見を聞きながら進めてまいりました。
177	横浜教育ビジョン2030の推進	・具体的な取組を作成する際も市民意見募集は実施するのか。その時期はいつになるのか。意見はすべてネットで公開してほしい。	参考	○具体的な取組を示す「横浜市教育振興基本計画」については、市民の皆様からご意見をいただき、平成30年度に策定する予定です。頂いたご意見はホームページにて報告いたします。
178	横浜教育ビジョン2030の推進	・目標とするところはとてもすばらしく、実現できたら、子どもにも親にもやさしい教育環境になりそうだ。オール横浜は連携に力を入れて実行できると良いが、横浜市という自治体はあまりに大きく、各区の独自の特徴を活かせる様にするべきである。中期学校経営方針、横浜市立学校カリキュラム・マネジメント要領については、「各学校」の示すもの、掘りどころの「学校単位」の方向性を要望する。教育委員会の各学校への上から目線の発言は、ビジョンの中味と逆方向に思える。学校生活の中に、ゆとりある人間関係、暖かみのある教師の言葉などがあれば、授業で道徳を押しつけることなく、社会性協調性はうまれると思う。	参考	○各学校は、「横浜教育ビジョン2030」を踏まえ、子どもの発達段階や学校、地域の状況に応じて学校基本目標を設定します。頂いたご意見は今後の取組の参考にさせていただきます。
179	横浜教育ビジョン2030の推進	・「横浜市教育振興基本計画」がどのように作り上げられるのか、現在膨れ上がっている教育課題を吸収してどのように構成を組み立てるのが見えてこない。タイムテーブルを出し具体性のある提案をしてほしい。	参考	○「横浜教育ビジョン2030」の実現に向け、「横浜市教育振興基本計画」に具体的な施策・取組を示してまいります。「第3期横浜市教育振興基本計画」は平成30年度に策定する予定です。
180	横浜教育ビジョン2030において重視する点	・出身や障害の有無などの「属性」によらず、個人として尊重されるという理念に基づき教育が行われるべきである。「インクルーシブ」という言葉を入れてほしい。多様性を尊重し、横のつながりを大切にしたインクルーシブな「社会・教育」という表現はどうか。	反映	○頂いたご意見を踏まえ、インクルーシブという表現を、11ページに盛り込むことといたしました。

No.	項目	頂いたご意見（概要）	対応状況	ご意見に対する考え方
181	横浜教育ビジョン2030において重視する点	・グローバル化とSDGsの重視は評価する。SDGsの17の目標を小中ともに教育課程で共有してほしい。核兵器禁止条約の活動を推進しているICANの活動も日本のNGOが推進した点も包含してほしい。	参考	○新学習指導要領においてもSDGsについて触れており、本市においても学習指導要領に基づき教育課程を編成していきます。頂いたご意見は今後の取組の参考にさせていただきます。
182	全体	・誰が誰に向けて発信するビジョンなのか、読んでもわからない。	反映	○「横浜教育ビジョン2030」は横浜市教育委員会が策定し、学校、家庭、地域、関係機関、企業等子どもの成長に関わる人に向けて発信します。いただいたご意見を踏まえ、11ページの「～とともに未来を創る～」の内容に盛り込むこととしました。
183	全体	・横浜の教育が育む力の5つの視点は別々ではなく、一貫して進めていくことが重要である。「横浜教育ビジョン2030」の現場における具体策が見えない。	賛同	○五つの視点「知」「徳」「体」「公」「開」は、相互に関連付けながらバランスよく育んでいくことが大変重要と考え、2頁の「横浜の教育が育む力」にその旨を示しています。「横浜教育ビジョン2030」の実現に向けて、具体的な取組については、「横浜市教育振興基本計画」に示してまいります。
184	全体	・多様性を重視しているなら、特別支援学校に通学する生徒像についても触れてほしい。様々な教育的ニーズの部分にもっと特別支援学校と一般校との連携・協同・研究などが触れられても良いのではないか。	参考	○「横浜教育ビジョン2030」は全ての学校種を対象としています。頂いたご意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。
185	全体	・全体的に、この新しいビジョンは現行ビジョンに比べて、児童主体ということが強調されていて、寄り添う姿が連想できる。	賛同	○頂いたご意見を踏まえながら、今後も教育施策を推進してまいります。
186	全体	・大変コンパクトに簡明にまとめられており、この内容で横浜の教育が推進されれば素晴らしい。だれも異論がないと思う。一方で現実には、いじめなどの課題があるので、現実から出発すべきである。	賛同	○「横浜教育ビジョン2030」の実現に向け、課題にしっかり取り組みながら、教育施策を推進してまいります。
187	全体	・第1章、2章は素晴らしい。3章のうち、学びと育ちの連続性のうち、高校の差別化が進行している。各校の差が顕著になっている現状はどのように解決するのか。	賛同	○横浜市立高校は「魅力ある高校ガイドライン」に基づき、特色ある高校教育を実践しています。頂いたご意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。

No.	項目	頂いたご意見（概要）	対応状況	ご意見に対する考え方
188	全体	・ビジョン 2030 は特に問題のあることはない。	賛同	○頂いたご意見を踏まえながら、今後も教育施策を推進してまいります。
189	全体	・普段、子どもと接する機会がない大人にとっては、このビジョンを共有しても何をすればよいのか見えない。	参考	○「横浜教育ビジョン 2030」を、地域や関係機関、企業等、子どもの成長に関わる人と広く共有し、子どもたちを育んでいきたいと考えています。具体的な取組については、「横浜市教育振興基本計画」に示してまいります。頂いたご意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。
190	全体	・内容が具体的ではない。教員の負担が増える。市教委の仕事は税金を無駄にしている。	参考	○子どもたちを、学校、家庭、地域等が連携・協働しながら育ていけるよう、横浜の教育の理念や方向性を明確にし、子どもの成長に関わる人と広く共有したいと考え、策定しています。「横浜教育ビジョン 2030」の実現に向けて、具体的な取組については、「横浜市教育振興基本計画」に示してまいります。
191	全体	・今回の素案の中に「よりよい」と言う言葉が多くみられるが、物事を決断し、進めていく際には「良い」「悪い」という指導も大切なのではないかと思う。	参考	○頂いたご意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。
192	全体	・素案の内容は、現場の状況を見据えていない。各地域の状況が違う中で統一的なことができるのか、どのような形で教育者が実行していくのか、大いに疑問に思う。受験のシステムが変わらない限り、ビジョンの実現はできないと思う。教育委員会はもっと現場を見て、現状を知るべきである。	参考	○「横浜教育ビジョン 2030」の検討にあたっては学校現場の意見を聞きながら進めてまいりました。各学校は「横浜教育ビジョン 2030」を踏まえ、子どもの発達段階や、学校、地域の状況に応じて学校教育目標を設定します。頂いたご意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。
193	全体	・具体策が盛り込まれていないので、一から星槎大学とともに作り直してほしい。理念だけ掲げられては子どもがかわいそうである。横浜市教育委員の理念に沿って進めるのは非常に危険である。発達障害児への支援は 2007 年の支援法に沿ってやるよう、見直してもらいたい。できないことがあっても、もっとおおらかにしてほしい。	参考	○「横浜教育ビジョン 2030」の実現に向け、具体的な取組については、「横浜市教育振興基本計画」に示してまいります。頂いたご意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。

No.	項目	頂いたご意見（概要）	対応状況	ご意見に対する考え方
194	全体	<p>・横浜教育委員会のビジョンなのか、横浜市のビジョンなのか判然としない。表題の通り横浜教育のビジョンなら、首長の主張・方向性が示されるべきである。現状の問題と思われるポイントを列挙し、改善するという総花的な内容になっている。各問題に付いての改善には、全く具体性がみられない。もっとメリハリをつけて提案すべきである。教科書の問題について触れられていないのも疑問。素案には常識的なポイントは含まれていると思うが、横浜市のビジョンとして出すには情けない内容であると思う。公共心の記載は不要。子どもに公共心を教え込む教育にどんな意味があるのか、大人がよく考えるべきである。</p>	参考	<p>○「横浜教育ビジョン」は横浜市教育委員会が議会の議決を経て策定します。29年11月の総合教育会議にて、林市長と教育委員会が「横浜教育ビジョン2030」素案（案）について協議し、その内容を踏まえて素案をとりまとめました。なお、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」により、地方公共団体の長は教育に関する大綱を策定することとされています。横浜市教育大綱はこちらのホームページからご覧いただけます。 http://www.city.yokohama.lg.jp/kyoiku/sougoukyouikukaigi/h27.html</p> <p>「横浜教育ビジョン2030」は横浜市教育委員会が学校、家庭、地域等が連携・協働しながら子どもたちを育ていけるように策定するものです。具体的な取組については「横浜市教育振興基本計画」で示してまいります。頂いたご意見は今後の取組の参考にさせていただきます。6頁「公 公共心と社会参画」の解説では、自ら考え行動し続ける態度など育てていくことを示しています。</p>
195	全体	<p>・総花的な教育ビジョン策定はやめてほしい。福島原発事故から避難してきた児童へのいじめ問題について、市教委としての真摯な総括を行い、その中から現場で生かすことを現場に提示すべきである。現行のビジョンを意識した日々の教育を重ねている現場教員がどのくらいいるのか。この教育ビジョンのようなものを現場教職員は求めている。</p>	参考	<p>○子どもたちを、学校、家庭、地域等が連携・協働しながら育ていけるよう、「横浜教育ビジョン2030」の目指す理念や方向性を明確にし、子どもの成長に関わる人と広く共有したいと考えます。「横浜教育ビジョン」（平成18年策定）で示した「知」「徳」「体」「公」「開」は、各学校の教育目標や中期学校経営方針に明記されるなど、教職員に広く浸透しています。いじめに対する取組は不可欠と考え、「教育の方向性」の「安心して学べる学校」に示しております。具体的な取組については、29年に改訂した「横浜市いじめ防止基本方針」等を踏まえ、「横浜市教育振興基本計画」に示してまいります。頂いたご意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。</p>

No.	項目	頂いたご意見（概要）	対応状況	ご意見に対する考え方
196	全体	・参考資料を読むと対象は横浜市立の小中学生のように読めたが、「生涯にわたり～」とあるので、横浜市民全員ということなのかわからなかった。	参考	○「横浜教育ビジョン2030」は、小・中・高等学校段階の学校教育を中心に、横浜の目指す人づくり等を示していますが、生涯学習の推進や幼児教育との連携についても関連性が高いので記載しています。
197	全体	・具体的な内容が書かれていないのでわからないが、学校は先生も生徒もやるのがたくさんあり過ぎて大変だ。余計なことは減らしていったらどうか。	参考	○教職員の担うべき業務の精選については大変重要と考え、8頁「教育の方向性」の「2 魅力ある学校づくり」の解説に示しています。具体的な取組については、「横浜市立学校教職員の働き方改革プラン」に沿って進めてまいります。頂いたご意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。
198	全体	・項目はどれも、理念にも具体性にも欠ける。「自ら」「主体的に」と子どもに求める項目が多く見られるが、どうしたら子どもが主体的に考えるようになるのか、それが浅くないか。「横浜を愛し」なんて要らない。教育が子どもに郷土愛を求めるのは誤りである。	参考	○7頁「教育の方向性」の「1 子どもの可能性を広げます」の解説において、子ども自身が興味を持って積極的に学ぶことができるよう授業改善を推進するとしています。具体的な取組は、「横浜市教育振興基本計画」及び「横浜市立学校カリキュラム・マネジメント要領」に示します。
199	全体	・全体的に具体的でないと感じる。精神論で乗り切ろうという感じがする。後から解釈でどうにでもなりそうで怖い。	参考	○「横浜教育ビジョン2030」の実現に向け、具体的な取組については、「横浜市教育振興基本計画」に示してまいります。
200	全体	・子どもたちは、横浜のために存在するのではない。その価値観が、他自治体と大きく乖離しており、改めてほしい。	参考	○「横浜教育ビジョン2030」における「人づくり」とは、人を予定された形に仕立てることではなく、「自ら学び 社会とつながり ともに未来を創る人」へと自ら成長していけるよう支えることと考えています。子どもたちを、学校、家庭、地域等が連携・協働しながら育ていけるよう、「横浜教育ビジョン2030」の目指す理念や方向性を明確にし、子どもの成長に関わる人と広く共有したいと考えます。

No.	項目	頂いたご意見（概要）	対応状況	ご意見に対する考え方
201	全体	<p>・横浜の子どもたちの悩み、生きにくさをどう受け止めて政策化しているのか、疑問に感じた。18年策定のビジョン以降、何が改善され、できていないのは何か、原因はどこにあるのか、教育委員会全体として、討議されたのか。国の教育政策をトップダウン式に受け止めているようでは、横浜らしい子どもたちの教育ビジョンは作れない。子どもの権利条約、児童憲章の視点から、横浜の子どもを今を見つめ、教育のどこをどう変えていこうとしているのか、きれいごとで済ませないビジョンになるように期待する。行政としてできることは、数値目標にできる方針にする必要がある。後ほど示される「横浜市教育振興基本計画」にどうつながっていくのか、分かる内容にしてほしい。</p>	参考	<p>○平成18年策定「横浜教育ビジョン」の実現に向けて、具体的な施策や取組を5か年計画として定め、5年ごとに検証を行っています。「横浜教育ビジョン推進プログラム（H18～22）」「横浜市教育振興基本計画（H22～26）」の検証結果はそれぞれホームページに掲載しております。「第2期 横浜市教育振興基本計画（H26～H30）」については、毎年度進捗管理を行っており、検証については、今後市会にて報告する予定です。「横浜教育ビジョン 2030」の実現に向け、今後策定する「横浜市教育振興基本計画」において、数値目標等を設定し、取組を進めてまいります。</p>
202	全体	<p>・素案は全体的に良く整理され、分かりやすい。今後、教育に対する一般人の意見を聴取する仕組みを強化すべきである。</p>	賛同	<p>○頂いたご意見を踏まえながら、今後も教育施策を推進してまいります。</p>
203	全体	<p>・大分市の教育ビジョンは、社会の動向に触れていたり、具体的な指標が記載されているが、そのような良い点が横浜教育ビジョンにはほぼない。</p>	参考	<p>○「横浜教育ビジョン 2030」の実現に向け、具体的な取組等については、「横浜市教育振興基本計画」に示してまいります。頂いたご意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。</p>
204	全体	<p>・今回のビジョンに対する支持を得て、環境整備や人材配置に予算が確保できるよう、「横浜教育ビジョン 2030」を幅広く組織や個人に周知してほしい。</p>	賛同	<p>○効果的な周知方法を検討し、「横浜教育ビジョン 2030」の内容を広く発信してまいります。</p>
205	全体	<p>・この教育ビジョンと基本計画が理念だけで、絵にかいた餅と言われ失敗に終わらないように、現場の教師の意見を積極的に反映させてほしい。</p>	賛同	<p>○「横浜教育ビジョン 2030」の検討にあたっては学校現場の意見を聞きながら進めてまいりました。今後も、「横浜教育ビジョン 2030」の実現に向け、教職員とともに取り組んでまいります。</p>

No.	項目	頂いたご意見（概要）	対応状況	ご意見に対する考え方
206	全体	・市民力に依存した内容であり、行政の責任感が薄い。教師は授業運営能力と生徒のケアに注力すべきであって、学校内の事務作業、集金、雑務は事務局部門を配置して業務管轄の整理と、web 出欠集計やweb 掲示板、メール連絡等効率を追求すべきである。また、児童館、図書館等の教育資源がすくなくすぎる。教育充実市を謳うならもっと拡充すべきである。性犯罪、セクハラ、パワハラ、体罰を犯した教職員は教育現場から永久的に排除すべきである。謹慎期間を経たからといって、別の学校に再配置するなどのもつてのほか。大分市教育ビジョンを参考にすべきである。	参考	○教職員の働き方改革については大変重要と考え、8頁「教育の方向性」の「2 魅力ある学校づくり」の解説に示しています。具体的な取組については、「横浜市立学校教職員の働き方改革プラン」に沿って進めてまいります。頂いたご意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。
207	全体	・大分市の教育ビジョンは、社会の動向に触れていたり、具体的な指標が記載されているが、そのような良い点が横浜教育ビジョンにはほぼない。横浜市に足りないものは何か、横浜市教育委員会全職員が把握してほしい。	参考	○「横浜教育ビジョン2030」の実現に向け、具体的な取組については、「横浜市教育振興基本計画」に示してまいります。頂いたご意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。
208	全体	・もっと充実した具体的な内容を求める。それが出来ないのであれば、次長、部長、課長、係長は辞任するくらいの覚悟でやってほしい。	参考	○「横浜教育ビジョン2030」の実現に向け、具体的な取組については、「横浜市教育振興基本計画」に示してまいります。
209	その他	・教科書採択に現場の教員の意見を反映できるようにしてほしい。	参考	○頂いたご意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。
210	その他	・教科書採択に現場の教員の意見を反映できるようにしてほしい。	参考	○頂いたご意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。
211	その他	・教育文化センターは、子どもたちや教員たちには必要な場所である。売却せずに残してほしい。	参考	○教育文化センター跡地については、「横浜市現市庁舎街区等活用事業実施方針」により民間事業者売却の方針が決定し、手続きが進められています。教育センターはこれからの横浜の教育を支える研究・研修拠点として、新たな施設の確保について検討を進めます。頂いたご意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。

No.	項目	頂いたご意見（概要）	対応状況	ご意見に対する考え方
212	その他	・教育文化センターを売却しないしてほしい。売却するなら代替施設を用意すべきである。	参考	○教育文化センター跡地については、「横浜市現市庁舎街区等活用事業実施方針」により民間事業者売却の方針が決定し、手続きが進められています。教育センターはこれからの横浜の教育を支える研究・研修拠点として、新たな施設の確保について検討を進めます。 頂いたご意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。
213	その他	・一番の問題は市教委が失っている誠実で正義のある仕事をする事である。教育長が辞せず教育委員会のトップにいることは、横浜の公立校にだけは通わせたくないと思わせる。また、子どもを持つ親にとって、カジノ誘致に積極的である地域に居住することは不安である。横浜市は以前から子育て支援が薄かったが、今後は子育て世代の市外転出がさらに増加するものと思われる。保育園や学校に放射性汚染土を埋没していたが、安全というなら、その学校に通っていた子どもの一生を追跡調査し、将来健康な子どもを持てるのか確認すべきである。「知 基礎・基本を身に付け、自ら問題を発見し、よりよく解決する力」「公 自分の役割や働くことの意義を理解し、行動する力」が全くない市教委からこれを押し付けられる子どもは不幸である。以上の内容から横浜市で子育てをしたくない。「公」や「開」の内容を市教委の仕事に反映することが子どもの命を守ることになる。市民の意見を聞き入れ、行政としての責務を果たす市教委になってほしい。他自治体、海外を含め良い事例は積極的に取り入れ、横浜市の人口を減らそうとする方針を変えてほしい。	参考	○「横浜教育ビジョン2030」の実現に向けて取り組むことが、教育委員会の重要な役割と考えております。頂いたご意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。
214	その他	・小中学校は基本となることをしっかりやってほしい。技術員が一人で掃除をするのはおかしい。また、地域と連携している学校が横浜は少ない。三現主義（現場・現物・現実）が大切であり、教育の一番の改革は現場を見て連携することである。	参考	○学校と地域の連携は大変重要と考え、8頁「教育の方向性」の「2 魅力ある学校つくります」の解説に示しています。頂いたご意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。

No.	項目	頂いたご意見（概要）	対応状況	ご意見に対する考え方
215	その他	・教育委員会の失態を見てきた。林市長に多大な責任がある。教育委員会は悪しき制度等を見直し、子どものために生まれ変わってほしい。まずビジョンの前に、教育文化センターを横浜市で作ることを決めてからやってほしい。	参考	○「横浜教育ビジョン2030」の実現に向けて、教育委員会として、しっかり取り組んでまいります。教育センターはこれからの横浜の教育を支える研究・研修拠点として、新たな施設の確保について検討を進めます。頂いたご意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。
216	その他	・「先生は忙しい」を理由に、生徒がけがをしても、いじめにあっても放置している。他の生徒の口封じをする。宿題を減らし、子どもの自主性を尊重してほしい。道徳教育や英語教育ではなく、作文に力をいれてほしい。教員の生徒への接し方に疑問がある。セクハラはもってのほかである。	参考	○頂いたご意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。
217	その他	・部活動について、大会で優勝することを目指し、無理な練習をさせてけがをさせないでほしい。学力をしっかりとつけてほしい。	参考	○部活動につきましては、平成30年度より、各学校で部活動休養日を設定していきます。頂いたご意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。
218	その他	岡田教育長に、「横浜市の教育長のあり方」という題で作文を書いて発表してもらいたい。	その他	○「横浜教育ビジョン2030」の実現に向けて、教育委員会として、しっかり取り組んでまいります。
219	その他	・ハマ弁をなぜ始めたのか説明してほしい。お弁当を持ってこられない生徒の救済を早くやってほしい。小学校給食の充実も求める。	参考	○早期に全校で実施ができることや、施設整備費が大幅に抑えられること、中学校の日課への影響を最小限に抑えられることなどを検討し、実施可能な方法として選択できる環境を整えるためにハマ弁を実施しています。また、生活環境により昼食の用意が困難な生徒に対し、ハマ弁を無償提供する支援を実施しています。 ○小学校給食につきましては、横浜市学校保健審議会における「横浜市として望ましい給食のあり方」の答申（平成29年11月24日）を受け、栄養価が充実し、食材や品数が豊富で、子どもたちが楽しみ、おいしく味わい、健やかに成長できるような給食となるよう、今後も、給食の充実に努めてまいります。
220	その他	・福島原発いじめの真相解明はいつまでかかるのか。	参考	○29年3月にいじめ重大事態に関する再発防止検討委員会報告書をまとめ、再発防止に取り組んでいるところです。

No.	項目	頂いたご意見（概要）	対応状況	ご意見に対する考え方
221	その他	・公立高校を減らさないでほしい。また、定時制高校だけに冷房設備がないのはなぜか。	参考	○横浜市立高校については現在閉校する予定はありません。また、定時制高校については、全日制高校と同一の校舎を使用しているため、施設整備の状況も全日制高校と同様です。普通教室についてはすでに空調の整備が完了しており、特別教室については現在順次整備しております。
222	その他	・去年、道徳教科書採択の傍聴に行き、抽選で外れた。広い会場で抽選会をするなら、そのままそこで採択をすればよい。こっそり決めてしまいたいのかと疑問を感じた。また会議の様子を中継で聞いたが、教育委員会の意見がおそまつ。現場の教師に閲覧させて意見を反映したようにも思えなかった。もっと現場や市民の意見も取り入れるべきである。無記名投票はやめるべきである。	参考	○頂いたご意見は今後の取組の参考にさせていただきます。
223	その他	・今年度の道徳教科書採択を含め、原発いじめの対応を見ているとトップと現場の意見が乖離しているように感じる。現場主義であるなら、いじめ、不登校、発達障害のエキスパートであるNPOの方々を教育委員会にいらしてはどうか？今のメンバーだと子どもから遠すぎる。	参考	○頂いたご意見は今後の取組の参考にさせていただきます。
224	その他	・育鵬社の教科書を使うことを止めてほしい。子どもに公平な学びを与えてほしい。あの教科書が恥ずかしいと思わないようなら、教育委員の資格は無いです。	参考	○頂いたご意見は今後の取組の参考にさせていただきます。

No.	項目	頂いたご意見（概要）	対応状況	ご意見に対する考え方
225	その他	<p>・学校司書の導入から5年が経ち、課題もある。待遇が悪いため、経験を積んだ司書が他の図書館へ巣立ってってしまう。優秀な司書が継続して横浜市の子ども達と接して行けるシステム構築が必要と考える。改善案1. 学校司書に交通費を支給する。2. 司書資格を有し司書経験1年以上の者で希望するものは、嘱託職員の採用試験を受けることができる。3. 嘱託職員の司書が学校司書研修の企画実施も担う。メリット①辞職・転職する司書が半減する。②ステップアップの道が拓かれること、評価されることでやりがいが増し、広い視野をもつことで、より質の高い学校司書業務へと結びつく。③教育委員会事務局の負担が大幅に軽減され、そのコストが削減される。</p>	参考	○頂いたご意見は今後の取組の参考にさせていただきます。
226	その他	<p>・横浜市の教育予算は確か全国ワースト2で政令指定都市では最下位に近かったのではないかと。学校給食について、小学校給食は家庭負担で値上げする一方で、喫食率が1%に満たないハマ弁にさらに税金を使って値下げとは、本当におかしいと思う。昼食時間が15分しかないため、ハマ弁は頼みたくても利用できない。</p>	参考	○現在、中学校昼食は、ライフスタイルに合わせて「ハマ弁」「家庭弁当」「業者弁当」の3つから等しく選べる「選択制」の充実に取り組んでいます。その中でも「ハマ弁」をより利用しやすくするために、価格の見直しを進めています。頂いたご意見は今後の参考にさせていただきます。
227	その他	<p>・昨年夏の市長選で林市長の政治協定の中に教科書採択が入っていることを東京新聞で報じられた。子どもが学ぶ教科書を教育的視点ではなく政治協定で選ぶとは残念としかいいようがない。横浜市が全国で6%しかシェアがない育鵬社を採択しつづけている理由はここにあることは明白である。全国的にシェアの高い帝国書院、東京書籍を採択するべきである。採択時に「無記名投票」を委員の方から言い出すのは無責任すぎる。「無記名投票」が横浜市の教育を物語っている。</p>	参考	○頂いたご意見は今後の参考にさせていただきます。

No.	項目	頂いたご意見（概要）	対応状況	ご意見に対する考え方
228	その他	・横浜市立高等学校はかなりよい実績をあげている数校だと思う。横浜サイエンスフロンティア高校、南高校は一貫化によってますます実績を上げる学校と期待する。横浜市立南高等学校附属中学校が市外枠を3割取るのはおかしい。横浜市民のみの受験にするべきである。	参考	○頂いたご意見は今後の参考にさせていただきます。
229	その他	・教科書の選択は、一部の人の意見で進めるのではなく、現場の教師の意見を公平にとりいれてほしい。	参考	○頂いたご意見は今後の取組の参考にさせていただきます。
230	その他	・IT化に向けて各校複数名のIT担当者を採用してほしい。	参考	○頂いたご意見は今後の取組の参考にさせていただきます。
231	その他	・学校図書館には、司書の先生が入ったおかげで、図書館が随分と明るく変わった。ボランティアにとっても本当にありがたかった。待遇改善を検討してほしい。	参考	○頂いたご意見は今後の取組の参考にさせていただきます。
232	その他	・すべての小中学校に学校司書が配置されてから、学校図書館が目覚ましく変わってきていることは大変嬉しく、今後もおおいに期待をしている。学校司書の待遇の改善や有資格者の採用も検討してほしい。また、市立高校の学校司書を正規職員に戻してほしい。	参考	○頂いたご意見は今後の取組の参考にさせていただきます。
233	その他	・教育文化センターを適切な改修をせず放置して長年子どもたちを危険にさらし、東日本大震災（2011）で完全に使えなくなってからはセンターなしで学校や子どもたちに不便を強いながら対策を施さず放置している。さらには、再開発に応じるように1等地を民間に売却してしまおうとする。足元の問題を解決できない横浜市教育委員会は、すべていったん白紙にしたほうが良い。	参考	○教育文化センター跡地については、「横浜市現市庁舎街区等活用事業実施方針」により民間事業者売却の方針が決定し、手続きが進められています。教育センターはこれからの横浜の教育を支える研究・研修拠点として、新たな施設の確保について検討を進めます。頂いたご意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。

No.	項目	頂いたご意見（概要）	対応状況	ご意見に対する考え方
234	その他	<p>・小学校給食の値上げについて、野菜の高騰等の理由は致し方ないが、600円というのはいきなり過ぎないか。もっと段階を経て、調整しながら行われるべきである。他方、利用率が0.1%のハマ弁は値下げすることだが、市民が求めているのは、値下げという安易な改善ではなく、給食の実施である。やっつけ仕事のように行っていることに憤りを感じている。</p>	参考	<p>○市の小学校給食の給食費につきましては、平成21年に値上げしてからこれまで、食材価格が徐々に値上がりする中で、献立の工夫や食材購入費を抑える努力で値上げせずに対応してまいりました。平成26年に食材価格が急騰し、その際も値上げを検討いたしましたが、保護者の皆様の負担を上げないように、横浜市学校給食費調整基金からの補てんを行い値上げをせずに対応いたしました。しかし、基金も底をつく見込みのため、今後さらなる補てんは難しい状況です。なお、600円の値上げ額につきましては、横浜市学校保健審議会に横浜市として望ましい給食のあり方について諮問を行ったところ、平成26年度の献立が横浜市として望ましい献立の水準であるとする答申をいただきました。これを踏まえ、平成26年度の献立に水準を戻すと、月額600円が必要になるものです。保護者の皆様には、ご負担をお願いすることになりますが、ご理解を賜りたいと考えています。市の中学校昼食につきましては、早期に全校で実施ができることや、施設整備費が大幅に抑えられること、中学校の日課への影響を最小限に抑えられることなどを検討した結果、ライフスタイルや日々の都合に合わせてハマ弁、家庭弁当、業者弁当を選択できる仕組として実施しています。「ハマ弁」をより選択しやすいものとするため、価格の引下げを予定しています。</p>
235	その他	<p>・岡田教育長、指導部長(※昨年度)の異動を強く求めます。福島原発いじめで、相手の生徒がおごってもらったという以上、いじめではないと言い、加害者を擁護した。対策が何もなく、感想を言っているだけである。教育長として恥ずかしい。反対意見は無視、あるいはけんかを売っているようである。指導部長(※昨年度)については、冷たく、相談もできない。何を言っても受け付けられない。</p>	その他	<p>○「横浜教育ビジョン2030」の実現に向けて、教育委員会として、しっかり取り組んでまいります。</p>

No.	項目	頂いたご意見（概要）	対応状況	ご意見に対する考え方
236	その他	・教育文化センターを売却すると聞いたが、横浜市の学校の催し物を他の市の施設に借りに行くということは、先生たちの負担はもちろん、他の市の学校の生徒にもしわよせがいく。市民や校長先生たちの要望を大切にしてお都市の横浜としての自覚を持ってほしい。カジノを作る税金があるなら、子どもたちのために、教育文化センターに市民の税金を使うべきである。	参考	○教育センターはこれからの横浜の教育を支える研究・研修拠点として、新たな施設の確保について検討を進めます。頂いたご意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。
237	その他	・教科書採択などで教員・学校の意見を尊重すべきである。教科書採択の審議が不透明である。	参考	○頂いたご意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。
238	その他	・教育文化センターを売却すると聞いたが、横浜市の学校の催し物を他の市の施設に借りに行くということは、先生たちの負担はもちろん、他の市の学校の生徒にもしわよせがいく。市民や校長先生たちの要望を大切にしてお300万人都市の横浜としての自覚を持ってほしい。カジノを作る税金があるなら、子どもたちのために、教育文化センターに市民の税金を使うべきである。	参考	○教育センターはこれからの横浜の教育を支える研究・研修拠点として、新たな施設の確保について検討を進めます。頂いたご意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。
239	その他	・小中学生の暴力行為が、全国的に発生率として高いのは、どこに原因を求めているのか。小学4年生くらいから急増していることと逆に中学生になり減っているのは、子ども関連機関の対応の問題か。子どもの意識状況をもっと深層的に追究する必要があると思う。	参考	○小学校では、繰り返し暴力行為を起こす児童が増加しています。児童の状況、背景を理解し、個に応じた指導に一層取り組むとともに、関係機関との連携を強化してまいります。中学校での減少は「社会で許されないことは学校でも許されない」という毅然とした組織的対応を行ない、関係機関との連携や、再発防止の取組が定着した結果だと考えられます。小中の連携を強化し、児童生徒理解に基づく個に応じた適切な対応を行うことにより、暴力行為の減少に努めてまいります。頂いたご意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。

■ 素案からの修正箇所

No.	頁	項目	素案（修正前）	案（修正後）	修正理由
1	3	3 横浜の教育の方向性 2 魅力ある学校をつくり ます	○ <u>地域資源を活かした学校</u> 地域資源を活かしながら、「 <u>社会に開かれた教育課程</u> 」を実現します。	○ <u>社会とつながる学校</u> 地域や社会と目標を共有し、 <u>連携・協働することを通して、子どもと社会がつながる学校をつくりま</u> <u>す。</u>	○パブリックコメントご意見を反映。 【意見1】 「 <u>地域資源を活かした学校</u> 」のタイトルのもとに「 <u>社会に開かれた教育課程を実現する</u> 」というのは、「 <u>社会に開かれた教育課程</u> 」を狭義に解釈しているように見える。より良い社会をつくるという目標を社会と学校が共有することや求められる資質や能力を教育課程で明確化することも含めて、「 <u>社会に開かれた教育課程</u> 」という言葉を使うべきである。 【意見2】 目指す人づくりや教育の方向性に「 <u>つながり</u> 」という言葉が使われており、 <u>つながりに必要な方法論は多角的に提示されているが、子どもたちのつながりをどのように育てるのか読み解けなかった。</u> 【意見3】 <u>学校、家庭、地域等との連携・協働の機能強化が重要である。また、地域に協力してほしいことを教員から発信することを明記すべきである。</u> 【意見4】 子ども地域の人の活用を強化すべきである。また、地域に対しても学校との連携強化を指導することを明記してほしい。
2	3	3 横浜の教育の方向性 3 豊かな教育環境を整えます	○ <u>地域とともにある学校</u>	地域とともに歩む学校	○パブリックコメントご意見を反映。 【意見1】 世界中の学校で世界中の子どもたちが学んでいる。また、世界中で教育研究が進められている。ぜひ <u>世界中のさまざまな人・場所・コトとつながって学校教育を、また教育研究を進めてほしい。</u> 横浜なんだから、大きく、ひろがりのあることをぜひ。
3	3	3 横浜の教育の方向性	4 <u>オール横浜で子どもを支えます</u> ○多様な主体との連携・協働 学校、家庭、地域、関係機関、企業等が連携・協働し、 <u>子どもの成長を支えます。</u>	4 <u>社会全体で子どもを育みます</u> ○多様な主体との連携・協働 学校、家庭、地域をはじめ、 <u>国内外の様々な関係機関や企業等が連携・協働し、子どもを育みます。</u>	

■ 参考資料修正箇所

No.	頁	項目	素案（修正前）	案（修正後）	修正理由
1	5	<p>2 横浜の教育が育む力 体 健やかな体</p> <p>○体力づくりを通じ、心身ともにたくましく生きる力</p> <p>○生涯にわたって運動やスポーツに親しむ態度</p>	<p><u>運動やスポーツには、粘り強くあきらめないで取り組み、目標を達成する喜びがあります。また、それぞれの興味関心に応じて親しむことで、生活をより豊かに送ることができます。</u>「ラグビーワールドカップ2019」「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会」の経験を踏まえ、<u>子どもの運動やスポーツに対する関心を高め、障害の有無を問わず、生涯にわたって運動やスポーツを「する、みる、支える、知る」と多様な関わり方で親しむ態度を育みます。</u></p>	<p><u>一人ひとりの興味関心に応じて運動やスポーツに親しむことは、生活をより豊かに送ることにつながりません。</u>「ラグビーワールドカップ2019」「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会」の経験を踏まえ、<u>関係機関や企業等と連携した取組を通して、運動やスポーツに対する関心を高め、生涯にわたって運動やスポーツを「する、みる、支える、知る」の多様な関わり方で親しむ態度を育みます。</u></p>	<p>○パブリックコメントご意見を反映。【意見1】</p> <p>「生涯にわたって運動やスポーツに親しむ態度」という表現だと、そのような心構えを育てていくというメッセージに受け取れる。しかし、運動やスポーツに親しめない人に<u>運動やスポーツに親しみましよう</u>と言っても押し付けになってしまい、反発されてしまうと思う。大切なことは学校教育を通して、子どもたちが社会に出てからも運動やスポーツを続けたいと思えるよう、運動やスポーツに内在する楽しさを知ること、運動やスポーツを行うための基礎的な動きを獲得することだと思う。<u>学校教育で「親しむ」ことを教えるのではなく、「親しむ」ことができる素養が育まれるよう、検討してほしい。</u></p>

No.	頁	項目	素案（修正前）	案（修正後）	修正理由
2	11	横浜教育ビジョン2030において重視する点	さらに、横浜の全ての子どもが、健やかに成長し、豊かに生きるとともに社会と連携・協働しながら未来の創り手としていきいきと活躍できるよう、「横浜教育ビジョン2030」を子どもの成長に関わる人（学校、家庭、地域、関係機関、企業等）と共有し、連携・協働しながら子どもを育みます。	～ともに未来を創る～ <u>大きく変化する時代を見据え、「横浜教育ビジョン2030」は、「自ら学び 社会とつながり ともに未来を創る人」の育成を目指します。このビジョンを、子どもの成長に関わる人（学校、家庭、地域、関係機関、企業等）で広く共有し、社会全体で子どもたちを育み、ともに未来を創っていきましょう。</u>	パブリックコメントご意見を反映。 【意見1】 <u>誰が誰に向けて発信するビジョンなのか、読んでもわからない。</u>
3	11	横浜教育ビジョン2030において重視する点	また、「持続可能な開発目標（SDGs）」の達成を目指し、世界中の人々が取組を進める中、子ども一人ひとりが地域や社会の将来を自分の課題として捉え、持続可能な社会の実現に向けて、自分たちができることを考え、多様な人々と協働し、実践することも重要です。	～ともに未来を創る～ また、「持続可能な開発目標（SDGs）」の達成を目指し、世界中の人々が取組を進めています。地域や社会の将来を自分事と捉え、 <u>誰もが自分らしく活躍できるというインクルーシブな視点をもって、多様な人々と協働し、共生する力を育むことも重要です。</u>	○パブリックコメントご意見を反映。 【意見1】 出身や障害の有無などの「属性」によらず、個人として尊重されるという理念に基づき教育が行われるべきである。「インクルーシブ」という言葉を入れてほしい。 <u>多様性を尊重し、横のつながりを大切にしたインクルーシブな「社会・教育」という表現はどうか。</u>

「横浜教育ビジョン」の振り返り

横浜市教育委員会では、2004（平成16）年に横浜教育改革会議を設置し、教育基本法改正や学習指導要領改訂に先駆けて、横浜における教育のあり方と改革の方向性について検討を行い、2006（平成18）年に「横浜教育ビジョン」を策定しました。

策定から10年が経過し、新しいビジョン（横浜教育ビジョン2030）の策定に際し、「横浜教育ビジョン」が果たしてきた役割を振り返りました。

1 横浜の教育の羅針盤

「横浜教育ビジョン」の理念の実現に向け、長期的な視点をもって「横浜教育ビジョン推進プログラム」「横浜市教育振興基本計画」を策定し、取組を推進することができました。

「横浜教育ビジョン2030」は、「横浜教育ビジョン」を礎とし、複雑で変化の激しい時代を見据え、社会の変化や新学習指導要領の考え方等を踏まえることが重要です。

2 目指す方向性の共有

横浜が目指す「人づくり」の視点として「知」「徳」「体」「公」「開」を示したことにより、学校ではその視点に沿った学校教育目標や「中期学校経営方針」を策定し、教育活動を展開することができました。

「横浜教育ビジョン2030」のもと、目指すべき姿や育成すべき力を子どもの成長に関わる人（学校、家庭、地域、関係機関、企業等）と共有し、連携・協働しながら社会全体で子どもを育むことが重要です。

3 子どもの力と可能性

「横浜型小中一貫教育」の推進や「横浜版学習指導要領」の策定により、小中学校の連携の強化が進み、子どもの学力の向上や他者を思いやる心の醸成等につながりました。

「横浜教育ビジョン2030」のもと、子どもの可能性を広げるため、主体的な学びや創造的な学びを推進していくことが重要です。

4 教師力と学校の組織力

国のモデルとなった「教員のキャリアステージにおける人材育成指標」に沿った研修の推進や児童支援専任教諭の小学校全校配置等により、教師力と学校の組織的な対応力が向上しました。

「横浜教育ビジョン2030」のもと、子どもが安心して学ぶことができ、教職員がいきいきと働くことができる学校をつくることが重要です。

5 自主的・自律的な学校経営

「学校を開く」視点による学校運営協議会の設置校拡大や、教育行政が「現場主義」に徹する視点による学校教育事務所の支援等により、自主的・自律的な学校経営を進めることができました。

「横浜教育ビジョン2030」を踏まえ、各学校は学校教育目標を地域や社会と共有し、連携・協働につなげ、教育委員会は学校の実態を踏まえた支援を行っていくことが重要です。

1 教育の使命と横浜の教育が目指すもの

[1] 教育の使命

- 子どもたちの確かな学力と豊かな心、健やかな体を育むことで、人格の完成を目指し、社会を担う者としての資質を身に付けた「市民」を育成すること。
- 先人が築き上げたものを大切にしつつ新たな挑戦をしていく姿勢、自らが幸せに生きるとともに他者の幸せにも寄与しようとする姿勢を育むこと。

教育が担う不易の「使命」に加え、複雑で変化の激しい時代への対応

- 解が一つではない課題にも柔軟に向き合い、持続可能な社会の実現に向け、自分たちができることを考え、他者と協働し解決していくことが重要。主体的に考え学び続け、個性や能力を活かしながら、夢や目標に向かってチャレンジし、より良い社会や新たな価値を創造できる人を育むことが重要。

[2] 横浜が目指す「人づくり」と学校教育において身に付ける力

- 「市民力・創造力」を兼ね備えた未来を担う『市民』の育成を掲げ、「知」「徳」「体」「公」「開」の視点から、次の3つの力を引き出し、「自ら考え、判断・行動し、激動の時代を生き抜く総合的な力」を身に付ける。

- ・ 学ぶ楽しさと創り出す喜びを原動力に、夢や希望に向けて努力する力
- ・ お互いの違いを認識したうえで、協働・共生する力
- ・ 進取の精神と多様性を認める柔軟さをもち、変化する社会を生き抜く力

「知」「徳」「体」「公」「開」の視点から見た横浜の子どもの変容（□成果・☆今後に向けて）

【知】幅広い知識と教養

- 学校での勉強が好きと答える子ども、困難なことにも挑戦する子どもが増加。
- ☆多様化、複雑化する社会を生き抜くために必要な力を育む上でも、自ら課題を設定し、その解決に向けて様々な角度から考えることが大切。そのため、互いの意見を交換し合うなどの授業改善が必要。

【徳】豊かな情操と道徳心

- 他者を思いやる心や礼儀や規律を重んじる態度が醸成。
- ☆「自分には良いところがある」と答えた横浜市の子どもの割合は、全国より低い状況。自分をかけがえない存在として大切にすることを心や、変化に柔軟に対応することができるような力を育むことが重要。

【体】健やかな体

- 運動やスポーツをすることが好きと答える子どもの割合がわずかに増加。また、食生活をはじめとし、生活習慣の基礎が育成。
- ☆横浜市の子どもの体力は、全国平均に比べると低い状況。体を動かすことの楽しさや心地よさを味わえるような取組を進めることが大切。

【公】公共心と社会参画意識

- 横浜を愛し、社会的な自立に向け、社会に貢献しようとする態度の醸成。
- ☆将来の夢や目標をもつ子どもや、地域等でのボランティア活動への参加経験は全国より低い。学校での学びと社会とを関連付け、地域や社会がよりよくなるために自分ができることを考え、他者と協働しながら課題解決を図る機会を設けることが大切。

【開】国際社会に寄与する開かれた心

- 異文化に対する関心が高まり、共生の意識の醸成。
- ☆価値観や背景の異なる相手ともコミュニケーションをとりながら、グローバルな視野で持続可能な社会の実現に向けて行動できることや、新たな価値を創造しようとする態度の育成が重要。

「市民力（社会の一員としての責任感、公共心、他者との協働・共生等）」、「創造力（進取の精神、多様性を認める柔軟さ、時代の変化への対応等）」の理念はこれからの時代でも不易なもの

- 「横浜教育ビジョン2030」では、「市民力・創造力」の理念を尊重しつつ、社会の変化や新学習指導要領の考え方を踏まえたものにしていくことが重要。

「知」「徳」「体」「公」「開」の理念は学校現場に広く浸透した

- 「知」「徳」「体」「公」「開」を活かし、新学習指導要領の考え方を踏まえ、キーワードとして改めて打ち出す。

[3] 「教育のまち・横浜」宣言

- 「教育のまち・横浜」を目指すことを宣言し、まち全体で横浜の子どもを育み、横浜らしい人づくりを推進。

「教育のまち・横浜」宣言に係る取組の更なる浸透を目指して

- 宣言については子どもの成長に関わる人（学校、家庭、地域、関係機関等）に浸透しなかったが、オール横浜で育むことは推進された。今後もさらに社会全体で連携・協働しながら子どもを育むことが重要。

2 5つの目標と7つの基本的方針

目標1 子どもの力を高めます

- 方針1 自ら考え判断し行動できる総合的な力を育む教育を目指します
 方針2 しっかり教えしっかり引き出す指導を徹底します

〈主な取組〉

- 「横浜版学習指導要領」の策定
- 「横浜型小中一貫教育」の推進
- 「横浜市子ども学力向上プログラム」
『豊かな心の育成』推進プログラム
「横浜市子どもの体力向上プログラム」
の策定と各校での取組推進
- 小学校1年生からの外国語活動の推進
- 図書館教育の推進（学校司書の全校配置）

〈〇成果・☆今後に向けて〉

- 「全国学力・学習状況調査」で、ほぼ全ての項目で全国平均を上回る
- 小中学校の連携強化（「学力観」「指導観」等の共有）
- ☆ 複雑で変化の激しい時代において求められる資質・能力の育成と、その獲得に向けた授業改善
- ☆ 小中9年間を通したカリキュラム・マネジメントの推進
- ☆ 「考え、議論する道徳」の推進や、いじめのない風土づくり

目標2 学校・教職員の力を高めます

- 方針3 誇りや使命感に満ちた信頼される教職員を確保・育成します
 方針4 マネジメント能力の向上により学校の“チーム力”を高めます

〈主な取組〉

- 「教員のキャリアステージにおける人材育成指標」の策定と研修の推進
- 「授業改善支援センター（ハマ・アップ）」の4方面開設
- 児童支援専任教諭の小学校全校配置
- 「中期学校経営方針」の策定と公表

〈〇成果・☆今後に向けて〉

- 「学校の授業が分かりやすい」と答える児童生徒の割合上昇
- 学校の組織的な対応力の向上
- ☆ キャリアステージに応じた的確な人材育成
- ☆ 様々な人材や関係機関等と連携する「チーム学校」の推進
- ☆ 小学校英語の教科化等の新たな教育内容や、特別な支援を必要とする児童生徒への対応等の教員の指導力向上

目標3 学校を開きます

- 方針5 学校を開き自律・分権・地域参画型の多様な学校を目指します

〈主な取組〉

- 「学校をひらく」週間の設定
- 「学校運営協議会」等の全校配置
- 「学援隊」「学校・地域コーディネーター」「地域交流室」の拡充

〈〇成果・☆今後に向けて〉

- 外部人材の積極的な活用等、開かれた学校運営の推進
- ☆ 「社会に開かれた教育課程」の実現に向け、地域の人的・物的資源および学校運営協議会等の更なる活用
- ☆ 社会全体で教育を推進

目標4 家庭、そして地域の教育力を高めます

- 方針6 家庭・地域・学校が連携し、子どもの成長を支え合います

〈主な取組〉

- 小中一貫型学校カウンセラーの全ブロック配置
- 区こども家庭支援課に学校連携・こども担当課長を配置
- 親の交流の場づくり事業

〈〇成果・☆今後に向けて〉

- 保護者からの相談を受けやすい環境の整備
- 区役所と学校との連携強化
- ☆ 保護者が安心して、家庭での教育を行える支援の強化
- ☆ 学校と関係機関等とが連携した切れ目のない支援の展開

目標5 教育行政は現場主義に徹します

- 方針7 教育行政は“現場主義”で保護者・地域の期待に応えます

〈主な取組〉

- 学校教育事務所の開設（市内4か所）
- 学校担当指導主事による学校訪問の充実
- 学校教育事務所における教職員研修、「授業改善支援センター」での「授業づくり相談」の実施

〈〇成果・☆今後に向けて〉

- 各学校の実情を踏まえた迅速かつきめ細かな支援の実施
- ☆ 学校が抱えるいじめ等の問題に対し、より迅速、的確に支援できる教育委員会事務局、学校教育事務所の体制整備
- ☆ 教育委員会事務局内での一層の連携強化、業務分担の見直し

【参考資料】

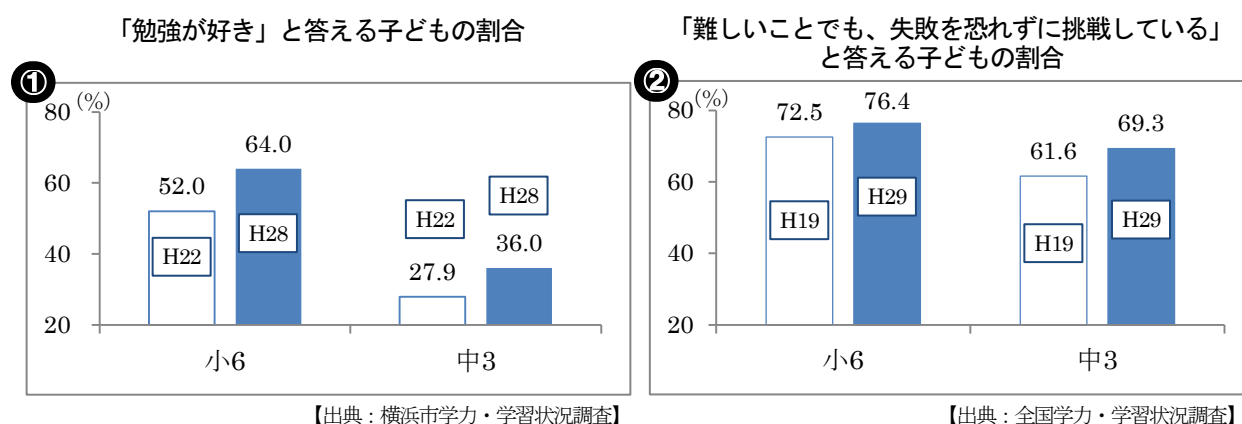
「市民力・創造力」を兼ね備えた未来を担う市民の育成を目指し、「知」「徳」「体」「公」「開」で表す力を育んできました。横浜教育ビジョンのもと、3つの計画（横浜教育ビジョン推進プログラム（H18～H22）、第1期横浜市教育振興基本計画（H22～H26）、第2期横浜市教育振興基本計画（H26～H30））を推進するとともに、各学校では、経営方針や教育目標に「知」「徳」「体」「公」「開」を反映させ、子どもたちを育んできました。

「知」「徳」「体」「公」「開」の視点から見た横浜の子どもの変容 （□成果・☆今後に向けて）

知 幅広い知識と教養

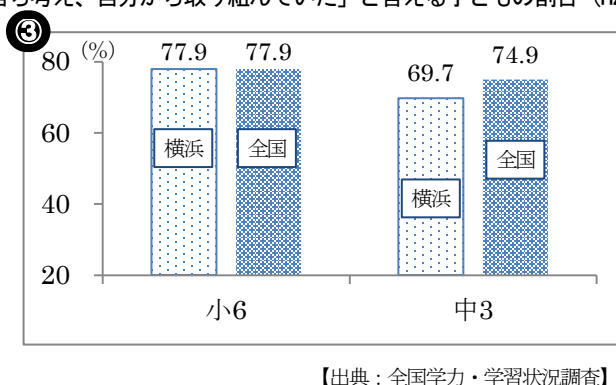
～学ぶ楽しさと創り出す喜びを通じて 自らの可能性と人生を切り拓きます～

○学校での勉強が好きと答える子ども、困難なことにも挑戦する子どもが増えてきています。



☆多様化、複雑化する社会を生き抜くために必要な力を育む上でも、自ら課題を設定し、その解決に向けて様々な角度から考えることが大切です。そのため、互いの意見を交換し合い、自らの考えを深められる授業改善が求められます。

「先生から示される課題や、学級やグループの中で自分たちで立てた課題に対して、自ら考え、自分から取り組んでいた」と答える子どもの割合（H29）

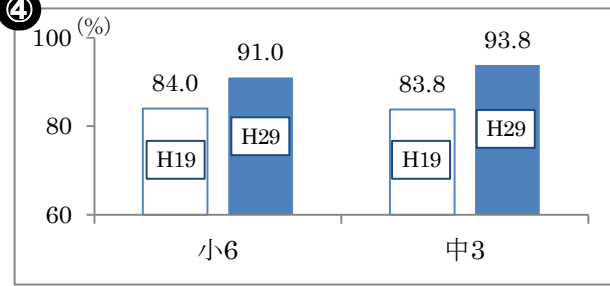


徳 豊かな情操と道徳心

～礼儀や規律を重んじ、家族を大切にし、他者を思いやり、相手の人格を尊重して行動します～

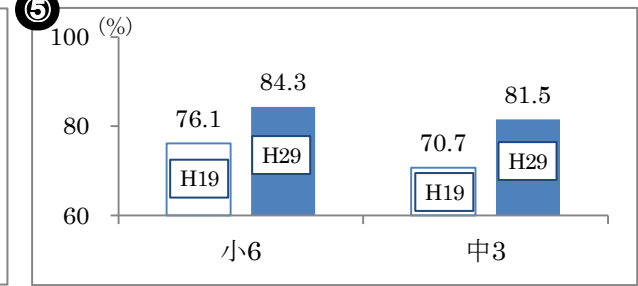
○他者を思いやる心や礼儀や規律を重んじる態度の醸成が進んでいます。

④ 「学校のきまりを守っている」と答える子どもの割合



【出典：全国学力・学習状況調査】

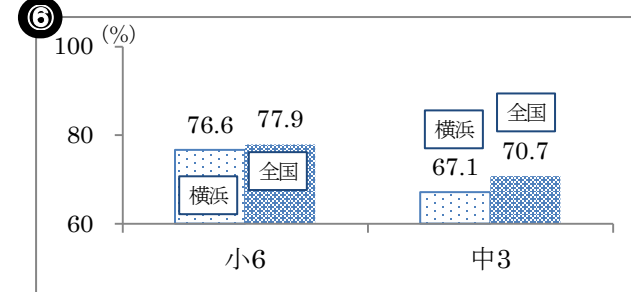
⑤ 「人が困っているときに、進んで助けている」と答える子どもの割合



【出典：全国学力・学習状況調査】

☆横浜の子どもの自己肯定感は、経年では高まってきているものの、全国に比べると低い状況にあります。自分をかけがえのない存在として大切にする心や、変化に柔軟に対応することができるような力を育むことが重要です。

⑥ 「自分にはよいところがある」と答える子どもの割合 (H29)



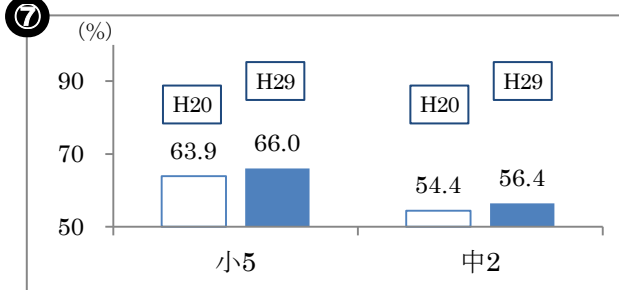
【出典：全国学力・学習状況調査】

体 健やかな体

～自分や他者の生命や体を尊び、自らの健やかな体をつくります～

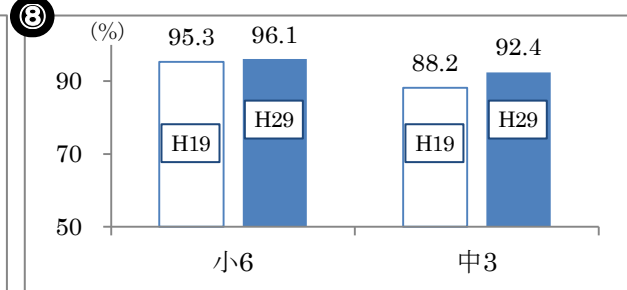
○運動やスポーツをすることが好きと答える子どもの割合がわずかに増えてきています。また、食生活をはじめとし、生活習慣の基礎が培われてきています。

⑦ 「運動、スポーツをすることが好き」と答える子どもの割合



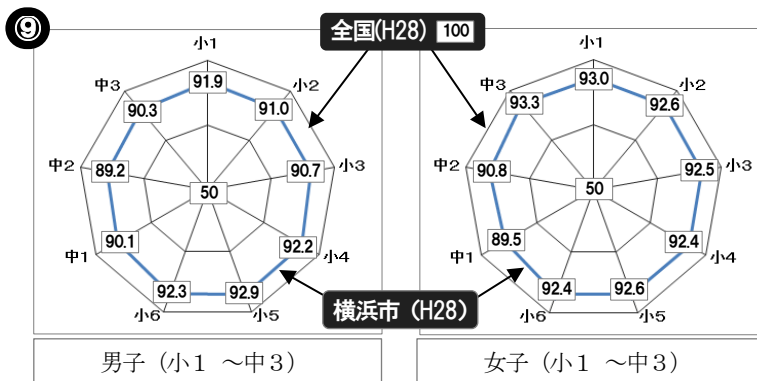
【出典：全国体力・運動能力等調査】

⑧ 「朝食を毎日食べている」と答える子どもの割合



【出典：全国学力・学習状況調査】

☆横浜市の子どもの体力は、全国平均に比べると低い状況にあります。体を動かすことの楽しさや心地よさを味わえるような取組を進めることが大切です。



体力合計点の全国との比較

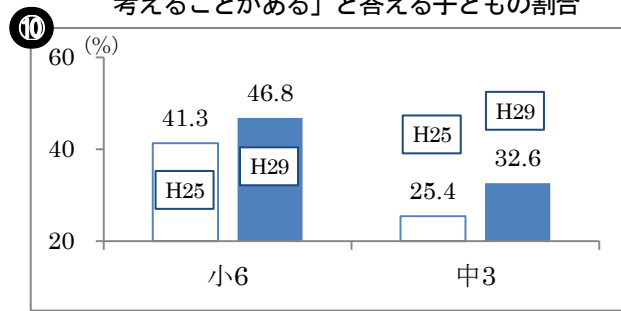
- ・「新体力テスト（9種目）」の成績を得点化したもので比較。
- ・横浜市は、全国平均に比べ、全年男女ともに低い。（左のグラフは、全国を100とした場合の横浜の値）

【出典：全国体力・運動能力等調査】

公 公共心と社会参画意識
 ～横浜を愛し、積極的に社会にかかわり、貢献します～

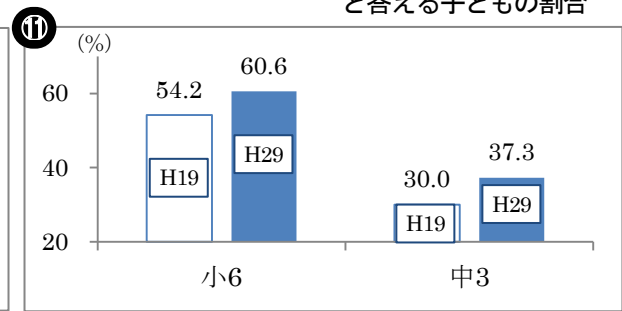
○横浜を愛し、社会的な自立に向け、社会に貢献しようとする態度が育まれてきています。

「地域や社会をよりよくするために何をすべきか考えることがある」と答える子どもの割合



【出典：全国学力・学習状況調査】

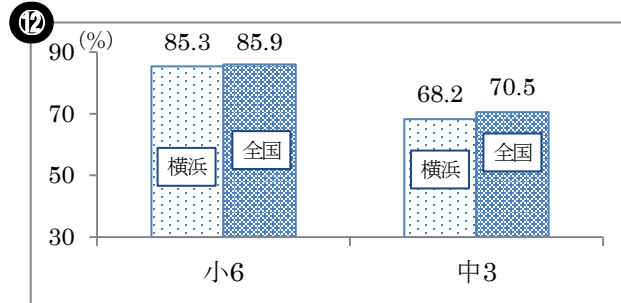
「今住んでいる地域の行事に参加している」と答える子どもの割合



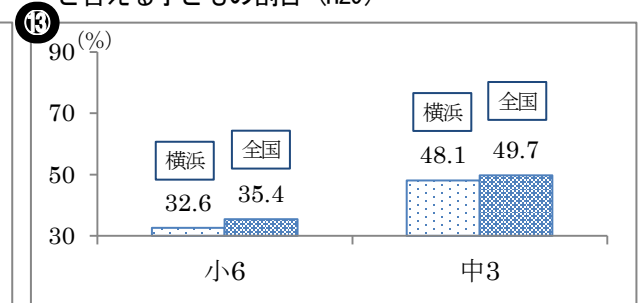
【出典：全国学力・学習状況調査】

☆将来の夢や目標をもつ子どもや、地域等でのボランティア活動への参加経験は全国より低い状態にあります。学校での学びと社会を関連付け、地域や社会がよりよくなるために自分ができることを考え、他者と協働しながら課題解決を図る機会を設けることが大切です。

「将来の夢や目標をもっている」と答える子どもの割合 (H29) 「地域社会などでボランティアに参加したことがある」と答える子どもの割合 (H29)



【出典：全国学力・学習状況調査】

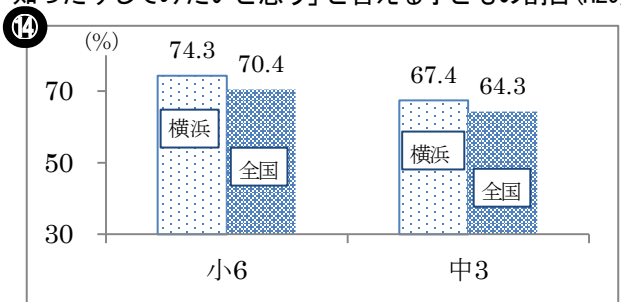


【出典：全国学力・学習状況調査】

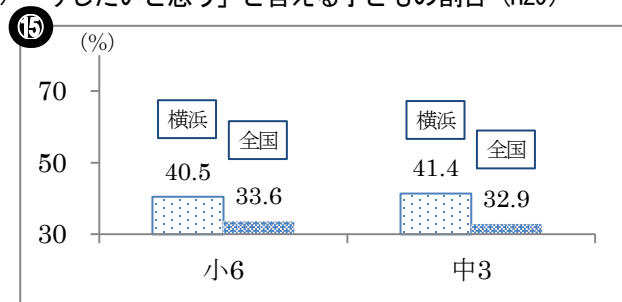
開 国際社会に寄与する開かれた心
 ～日本の伝統や文化を尊重しながら、国際社会の発展に貢献します～

○異文化に対する関心が高まり、共生の意識の醸成が進んできています。

「外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたいと思う」と答える子どもの割合 (H29) 「将来、外国に留学したり、国際的な仕事に就いてみたいと思う」と答える子どもの割合 (H29)



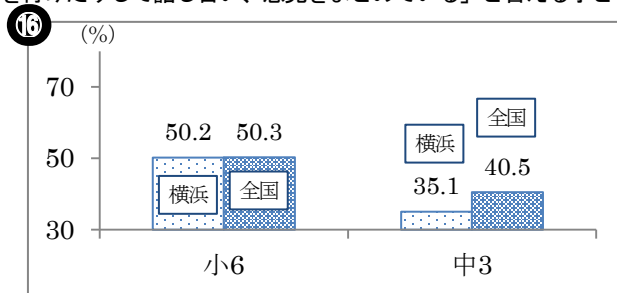
【出典：全国学力・学習状況調査】



【出典：全国学力・学習状況調査】

☆一層グローバル化が進む中、多様な人々と協働できるよう、価値観や背景の異なる相手ともコミュニケーションをとりながら、グローバルな視野で持続可能な社会の実現に向けて行動できることや、新たな価値を創造しようとする態度の育成が重要です。

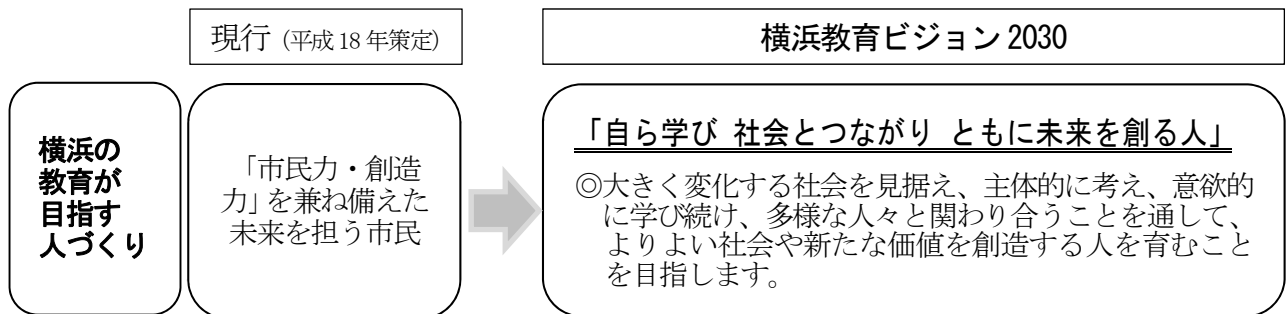
「学級会などの話し合い活動で、自分とは違う意見や少数意見を生かしたり折り合いを付けたりして話し合い、意見をまとめている」と答える子どもの割合 (H29)



【出典：全国学力・学習状況調査】

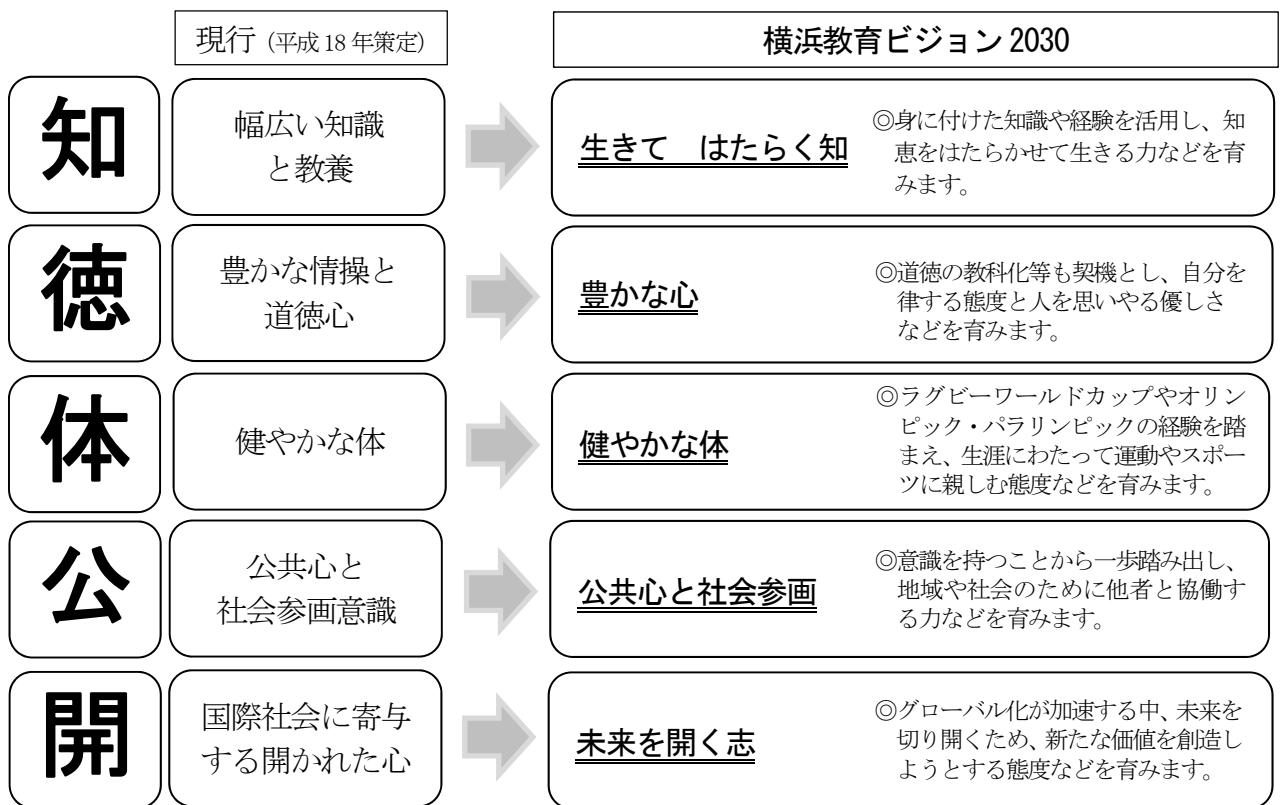
現行ビジョンと「横浜教育ビジョン2030」の違いについて

1 横浜の教育が目指す人づくり



2 子どもに身に付けてほしい力を5つの視点「知」「徳」「体」「公」「開」で表現

「横浜教育ビジョン」を礎に、2030年頃の社会のあり方を見据え、また、新学習指導要領の考え方をふまえ、教職員に広く浸透している「知」「徳」「体」「公」「開」を、改めて打ち出しました。



3 横浜の教育の方向性における新たな視点

新たな時代に向けて、「多様性を尊重し、つながりを大切にした教育」を推進することを明記。

- 「教育の方向性1 子どもの可能性を広げます」に主体的な学び、創造に向かう学びを明記
- 「教育の方向性2 魅力ある学校をつくります」にいじめなどの課題への対応、社会に開かれた教育課程の実現、教職員の働き方改革を明記
- 「教育の方向性3 豊かな教育環境を整えます」に建替えの基本方針に基づく学校施設の計画的な建替えを明記
- 「教育の方向性4 社会全体で子どもを育みます」に家庭教育の支援、多様な主体との連携・協働、教育と福祉や医療の連携を明記